

# 沖新通信

Vol.105

2026年3月

国立 佐世保  
高専



## 目次

|           |                     |
|-----------|---------------------|
| 巻頭言       |                     |
| 学校長より     | 校長 下田 貞幸 1          |
| 教務主事より    | 副校長（教務主事） 教授 志久 修 2 |
| 令和7年度ニュース | 2                   |

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 新任教員紹介  |                       |
| 電気電子工学科 | 准教授 石橋 春香 3           |
| 電気電子工学科 | 助教 堀 敬一郎 3            |
| 情報知能工学科 | 教授 ムハマドアリフィン ビンマンソル 3 |
| 情報知能工学科 | 助教 新村 貴之 4            |
| 基幹教育科   | 教授 蒲地 祐子 4            |
| 基幹教育科   | 講師 ベンス ダークセン カイ 4     |

|             |   |
|-------------|---|
| 令和7年度主要行事日程 | 5 |
|-------------|---|

|           |                              |
|-----------|------------------------------|
| 機械制御工学科   |                              |
| 学科長より     | 機械制御工学科長 教授 森川 浩次 6          |
| 授業紹介      | 機械制御工学科 教授 中島 賢治 6           |
| クラス紹介     | 機械制御工学科・機械工学科1、2、3、4年 学級委員 7 |
| 5年間を振り返って | 機械工学科5年 川本一京太 8              |
|           | 機械工学科5年 都甲 刻 8               |
| 卒業研究      | 機械工学科5年 井上 優人 9              |
|           | 機械工学科5年 大戸 優輝 9              |
| 教員研究      | 機械制御工学科 助教 久保田慎一 9           |

|           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 電気電子工学科   |                         |
| 学科長より     | 電気電子工学科長 教授 川崎 仁晴 10    |
| 授業紹介      | 電気電子工学科 教授 川崎 仁晴 10     |
| クラス紹介     | 電気電子工学科1、2、3、4年 学級委員 11 |
| 5年間を振り返って | 電気電子工学科5年 鹿山 歩夢 12      |
|           | 電気電子工学科5年 中野ひなた 12      |
| 卒業研究      | 電気電子工学科5年 濱浦 理央 13      |
|           | 電気電子工学科5年 須加崎孝紀 13      |
| 教員研究      | 電気電子工学科 教授 下尾 浩正 13     |

|           |                                 |
|-----------|---------------------------------|
| 情報知能工学科   |                                 |
| 学科長より     | 情報知能工学科長 教授 手島 裕詞 14            |
| 授業紹介      | 情報知能工学科 准教授 佐当百合野 14            |
| クラス紹介     | 情報知能工学科・電子制御工学科1、2、3、4年 学級委員 15 |
| 5年間を振り返って | 電子制御工学科5年 松本 歩華 16              |
|           | 電子制御工学科5年 森 優佐 16               |
| 卒業研究      | 電子制御工学科5年 豊田 虎 17               |
|           | 電子制御工学科5年 中村 終介 17              |
| 教員研究      | 情報知能工学科 教授 前田 貴信 17             |

|           |                                 |
|-----------|---------------------------------|
| 化学・生物工学科  |                                 |
| 学科長より     | 化学・生物工学科長 教授 城野 祐生 18           |
| 授業紹介      | 化学・生物工学科 助教 嘉悦 勝博 18            |
| クラス紹介     | 化学・生物工学科・物質工学科 1、2、3、4年 学級委員 19 |
| 5年間を振り返って | 物質工学科5年 荒木 音羽 20                |
|           | 物質工学科5年 江頭 功暉 20                |
| 卒業研究      | 物質工学科5年 福田虎雄希 21                |
|           | 物質工学科5年 大串 将也 21                |
| 教員研究      | 化学・生物工学科 助教 嘉悦 勝博 21            |

|                        |                               |
|------------------------|-------------------------------|
| 基幹教育科                  |                               |
| 基幹教育科長より               | 基幹教育科長 教授 森 保仁 22             |
| 授業紹介                   | 基幹教育科 講師 古瀬 由佳 22             |
| 教員研究                   | 基幹教育科 講師 田嶋 優 23              |
| 教員研究                   | 基幹教育科 講師 栗山 雄佑 23             |
| リベラルアーツⅠ               | 基幹教育科 准教授 大山 泰史 24            |
| グローバルリテラシー             | 基幹教育科 講師 栗山 雄佑 24             |
| グローバルリテラシー印象に残ったポスター4選 | 眞部ゼミA班・森ゼミA班・カイゼミA班・濱田ゼミA班 25 |

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 専攻科    |                         |
| 専攻科長より | 専攻科長代理 教授 兼田 一幸 26      |
| 授業紹介   | 化学・生物工学科 准教授 田中 泰彦 26   |
| 卒業生から  | 専攻科2年 機械工学系 千住哲太郎 27    |
|        | 専攻科2年 電気電子工学系 石元 沙知 27  |
|        | 専攻科2年 情報工学系 山領 悠太 27    |
|        | 専攻科2年 化学・生物工学系 植西葉々子 27 |
| 特別研究   | 専攻科2年 機械工学系 井手 公子 28    |
|        | 専攻科2年 電気電子工学系 津上 聖矢 28  |
|        | 専攻科2年 情報工学系 樋渡 龍 28     |
|        | 専攻科2年 化学・生物工学系 松尾 亜弥 28 |
| 学生発表   | 専攻科2年 化学・生物工学系 芝 真朱咲 29 |

## 次

|                         |              |
|-------------------------|--------------|
| 進路                      |              |
| 令和7年度卒業生・修了生の進路状況 編入学一覧 |              |
|                         | キャリア教育支援室 30 |
| 就職企業一覧                  | 31           |

|             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 学生生活        |                                |
| 学生主事より      | 副校長（学生主事） 教授 堀江 潔 32           |
| 学生会長より      | 前期学生会長 電気電子工学科5年 雨木 愛翔 32      |
|             | 後期学生会長 機械工学科4年 前田 慶次 32        |
| 競技大会（前期）    | 前期体育局長 機械工学科5年 白井 勇惺 33        |
| 競技大会（後期）    | 前期副体育局長 電気電子工学科4年 佐藤 好未 33     |
| 体育祭         | 前期体育祭実行委員長 物質工学科5年 酒井 杏梨 34    |
|             | 前期体育祭副実行委員長 電気電子工学科5年 指方 夕貴 34 |
| 文化祭         | 前期文化局長 電気電子工学科5年 吉村 陽翔 35      |
|             | 前期文化祭実行委員長 機械工学科5年 河野 通伸 35    |
| ラグビー部       | 機械工学科5年 川原 康聖 36               |
| 男子バスケットボール部 | 機械工学科5年 市瀬 流生 36               |
| 女子バレーボール部   | 電子制御工学科5年 松尾 結佳 36             |
| 陸上部         | 物質工学科3年 納富 慧 36                |
| 水泳部         | 物質工学科4年 竹市 綾乃 37               |
| 卓球部         | 物質工学科5年 池田 朔斗 37               |
| 囲碁将棋部       | 機械制御工学科1年 岩本 叶大 37             |
| 吹奏楽部        | 電気電子工学科3年 朝長 輝 37              |

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 学寮生活   |                       |
| 寮務主事より | 副校長（寮務主事） 教授 森田 英俊 38 |
| 寮長より   | 機械工学科4年 前田 陸翔 38      |
| 女子棟長より | 物質工学科4年 前田 まこ 38      |
| 寮祭     | 機械工学科4年 山本 武弥 39      |

|           |                        |
|-----------|------------------------|
| サポート体制    |                        |
| 学生支援室     | 学習支援室長 准教授 大浦 龍二 40    |
| バリアフリー支援室 | バリアフリー支援室長 教授 大里 浩文 41 |

|                                               |                      |
|-----------------------------------------------|----------------------|
| 各方面への取り組み                                     |                      |
| 令和7年度から佐世保高専は変わります                            | 42                   |
| 令和7年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）  |                      |
|                                               | 化学・生物工学科 教授 城野 祐生 43 |
| 半導体育成事業                                       | 電気電子工学科 准教授 日比野祐介 44 |
| GEAR5.0                                       | 機械制御工学科 准教授 西口 廣志 45 |
| EDGE キャリアセンター長                                | 電気電子工学科 准教授 猪原 武士 46 |
| アントレプレナーシップ部門（長崎学生ビジネスプランコンテスト2025）           | 46                   |
|                                               | 物質工学科2年 菊池 優里 46     |
|                                               | 物質工学科2年 中川 璃音 46     |
|                                               | 物質工学科2年 関口 舞 46      |
| アントレプレナーシップ部門（亀山電機「第11回学生ものづくり&アイディアコンテスト」金賞） | 46                   |
|                                               | 電子制御工学科3年 城野 生羽 46   |
|                                               | 電子制御工学科3年 大嶋 愛聞 46   |
|                                               | 電子制御工学科3年 川久保光莉 46   |
|                                               | 電子制御工学科3年 高木 華恋 46   |
|                                               | 電子制御工学科3年 関口 舞 46    |
| ふるさと納税                                        | 電気電子工学科 准教授 猪原 武士 47 |
| 国際交流                                          | 情報知能工学科 教授 前田 貴信 48  |
| 国際交流部門（語学留学）                                  | 物質工学科2年 原野ひなた 48     |
|                                               | 物質工学科5年 大串 将也 48     |
| JASSO 協定派遣体験記                                 | 電子制御工学科3年 西山 幸星 49   |
| とびたて！留学JAPANのすすめ                              | 電子制御工学科3年 本土 四葉 49   |
| サイバーセキュリティボランティア                              |                      |
|                                               | 電子制御工学科5年 森 優佐 50    |
| 令和7年度Robogalsの活動報告                            | 基幹教育科 教授 塚崎 香織 50    |
| 地域共同テクノセンターより                                 | 情報知能工学科 准教授 佐藤 直之 51 |
| 企業技術セミナー                                      | 総務課総務企画係 51          |
| 公開講座・おもしろ実験ミニ                                 | 総務課総務企画係 52          |
| 一日体験入学・高専説明会                                  | 学生課入試担当 53           |

|           |                        |
|-----------|------------------------|
| 離任のご挨拶    |                        |
| 退職する教職員より | 機械制御工学科 嘱託助教 石橋 真 54   |
| 退職する教職員より | 化学・生物工学科 嘱託教授 長田 秀夫 54 |
| 退職する教職員より | 基幹教育科 准教授 濱田 裕康 55     |



## 「AI時代の新たな高専教育」



校 長  
下 田 貞 幸

生成 AI は今や日常生活から教育まで幅広く浸透しています。調べ物やレシピ提案など、様々な場面で便利に活用している方も多いのではないのでしょうか。一方で、フェイクニュースや偽画像などの課題も指摘されています。メリット・デメリットが未だ混沌とした中ではありますが、教育現場においても、学生は様々な質問を AI に投げかけ、教員も研究や授業準備での効率化などを実感していることでしょう。

少し前の記事になりますが、グロービス経営大学院の web サイトでは、この先、①マネジメント系②クリエイティブ系③ホスピタリティ系④クラフトマン系⑤テクノロジー系の 5 領域の仕事で人間と AI との棲み分けができるのではないかと論考が掲載されています。人間としての意思や判断、新しい価値を生み出す、人と人の感情や信用が介在する、人間の身体の優位性を生かした作業、テクノロジーの先に生まれるテクノロジー、このような能力や場面においては「人」が重要になるとのことです。

慶應義塾大学の伊藤公平塾長は、AI 時代の人間にとって大切なものは、「好奇心を育てる」「志を高める」ことであり、この能力をつける学びの場を整備していくことで最先端の AI を活用できると考えている、と述べています。AI をただのツールとして扱うと人間の方が使われてしまうことになりかねない、好奇心を持って AI に問いかけ、信念を持ってその答えをどう解釈し活用するかが重要ということなのです。

高専教育に話を転じましょう。私は佐世保高専や高専制度のことを説明する際に、高専では高いレベルの「知識と技術」をバランスよく学び、それを活用する「実践の場」が用意され、そのような学びを通して「手を動かしながら考える技術者」や新しいことにチャレンジし「新しい幸せな社会を創り出す技術者」を育成している、と説明してきました。また、これからの社会と高専教育について話をする際に、単に「知識と技術」だけでは生き抜いていけない社会がくる、知識は AI に技術はロボットに置き換わっていくだろう、高専教育の本質を見定めこれからの新たな高専教育を作り上げていく必要があるとも言っています。

これからの AI 全盛の時代においても技術者にとっては「知識と技術」は必要不可欠です。知識に関することを AI に聞くとほぼ間違いのない答えが返ってくるかもしれません。し

かし、その回答を正確に解釈できるだけの知識を聞いた本人が持っていないと「活用」とはなりません。知識と技術だけでは生き残れないと言いつつ知識は必要、技術も必要と。では必要な知識・技術とは何なのか、必要な知識・技術を獲得する手段はどうしたらいいのか。どのような教育が必要なのか。みんなで考え、試行錯誤し実践することが求められています。前述の 5 領域もヒントとなりそうです。

高専での成績評価も変わっていかねばなりません。知識だけの勝負では AI には勝てないことは明白です。ペーパーテストによる知識ベースの評価は意味がない場合もありえます。前述の 5 領域を見ても知識ベースの領域はありません。でも情報の真偽を判断するには知識は必要です。結局、知識は必要だけれど知識だけでは戦えない、その先がないと人としての優位性は発揮できないということになります。テストで点数を取るための勉強だけでは意味を持たない可能性があります。その先が必要なのです。ここにこそ、伊藤塾長の「好奇心と志」の重要性が響いてきます。

教育は難しい時代に入りました。学生にとっても、教員にとっても。悩み、工夫し、実践しながら考えることが必要です。学生と教員が一緒になって、新しい高専教育を創り上げる時が来ています。60 年以上にわたる高専教育の歴史に学んだり、社会で活躍する卒業生からの意見を参考にしたりしながら、高専の未来を切り拓きましょう。

高専は、卒業後 40 年以上にわたり世界を支える技術者を育てる教育機関です。その責任は重大です。チャレンジしましょう。みんなの力で高専教育を一步先へ押し上げましょう！



## 今年度の振り返りと来年度に向けて



副校長（教務主事）  
情報知能工学科 教授

志 久 修

本科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。専攻科の皆さん、修了おめでとうございます。保護者の皆様にも、心よりお喜び申し上げます。本科では5年間、専攻科では7年間という長い期間にわたり、技術者教育を継続して学んできました。そこで培った知識や経験、そして学び続ける姿勢を、今後の進学や社会での活躍にぜひ生かしてください。

令和7年度は、本科856名（内女性233名）、専攻科50名（同11名）を合わせた計906名（244名）でスタートしました。本年度からは、高度情報専門人材の育成を目指して学科の改組が行われ、新しいカリキュラムが始まりました。それに伴い、本科の定員も20名（各学科5名）増え、新たな体制での教育活動が始まりました。

本年度も、日々の授業や試験に向けた学習、実験や課題への取組を重ねる中で、新しい知識や考え方が身につき、理解

の幅が広がったと感じた場面も多かったのではないのでしょうか。こうした学びを支えるため、本年度は教育活動の運用面について、試験時のトイレ対応や病欠による追試験、欠席・遅刻時の連絡方法などについて改善を図り、学生の皆さんが安心して勉強できる環境づくりを進めてきました。

高専での学びは内容が専門的であるため、日々の積み重ねが大切です。授業で学んだことを振り返り、分からない点をそのままにせず、少しずつ理解を深めていくことが、これからの学びの土台になります。こうした継続して学ぶ姿勢は、在学中だけでなく、将来にわたって自ら成長し続けるための大切な力となります。

新年度を迎えるにあたり、在校生の皆さんには、これまでの経験を土台として、自ら考え、学び続ける姿勢をさらに大切にしてほしいと思います。それぞれの目標に向かって、一歩ずつ前に進んでいく皆さんを、応援しています。

## 令和7年度ニュース

4月 「DIGI+」1期生を含む新入生入学ならびに新任教員着任。 [👉 P3](#)

6月 大阪万博「EXPO 共鳴フェスー万博から描く未来社会の技術、デザイナー」において、「高専未来チャレンジ」コーナーに佐世保高専のブースを出展。 [👉 P46](#)

9月 男子バスケットボール部、女子バレーボール部、全国高専体育大会で準優勝！ [👉 P37](#)

11月 「第11回学生ものづくり&アイデアコンテスト」にて、金賞・銀賞・銅賞、および3つの企業賞をすべて本校チームが受賞。 [👉 P47](#)

12月 佐世保市と連携した、ふるさと納税型クラウドファンディング（令和7年分は目標金額を達成）。 [👉 P48](#)

1月 新棟「デジタルフロンティアハブ」開所式を実施。 [👉 P44](#)



## 新任教員紹介

### 右往左往しながら学ぶこと



電気電子工学科 准教授

石橋 春香

こんにちは。令和7年度4月より電気電子工学科に着任しました、石橋春香と申します。地元佐世保で先生ができることになりとてもうれしいです。

佐世保の学生は勉強に対してとても真摯で、やりがいのある日々を過ごさせていただけます。

専門は計測と制御になります。特に研究においては音や光を用いて表立って見えないものを誰でも見える形にすることをおこなっています。もっと端的に言うと、「石橋をたたいて渡る」という検査方法を橋以外にも適用できないか、他に簡単に同じ結果を得られる方法はないかを実験と数式で追及しています。石橋は石橋をたたいて渡る研究をしていると覚えていただければと思います。

座右の銘は「人生万事右往左往」です。回り道をたくさん繰り返して佐世保高専に来ました。傍からみれば寄り道と無駄の多い人生ですが、それでもなんとかなること、でももっとすんなりやれるならやったがよかったよねということ、この経験を学生に還元できればと考えています。また学内や授業でも実際に右往左往していますので、学内のことでも授業についてでも、教えていただけると嬉しいです。これからどうぞよろしく願いいたします。

### 新任のご挨拶



情報知能工学科 教授

ムハマドアリフィン ビンマンソル

このたび、佐世保工業高等専門学校 情報知能工学科 教授として着任いたしましたアリフィンと申します。直近まではマレーシア

の大学において準教授として教育・研究および研究マネジメントに携わり、学部・学科運営や研究推進にも従事してまいりました。学歴としては、長岡科学技術大学、東海大学、九州工業大学や大分大学にて電子情報系分野を専攻し、学士・修士・博士の学位を取得しております。研究面では、人工知能、IoT 技術を基盤とし、スマート農業やものづくり分野など、実社会の課題解決に直結する応用研究に取り組んでいます。私生活では、家族と過ごす時間を何よりも大切にしており、四人の子どもたちと共に旅行をしたり、各地の自然に触れたりすることが大きな楽しみです。現在は佐世保で单身生活を送っていますが、離れて暮らす家族とのつながりを大切に、再会の時間を心待ちにしながら日々を過ごしています。時々、岡山大学に留学中の長男と二人でどこかへ出かけます。今後は、佐世保高専の教育理念のもと、学生の皆さんと共に成長し、挑戦し続けられる教育・研究活動に誠心誠意取り組んでまいります。

### 物理っておもしろい



電気電子工学科 助教

堀 敬一郎

みなさま、今年度より電気電子工学科に着任しました堀です。専門は原子核理論で主に物理を教えています。

物理をおもしろいと思ってもらうためにはどうしたらよいかってたまに考えています。物理を学ぶことで論理的に考える力、ものの見方・世界が広がる感覚、そこにあるものを疑う姿勢などを得られます。しかし、それがどんなに素晴らしいかがなかなか伝えづらいし、メリットで語るのも違う気がしてくる。そして、結局はなんで自分は物理をおもしろいと思っているんだっけというところにたどり着きます。物理を学んでいるとわからないものがたくさんあり、それらは少しずつわかるものになり、一見関連がなさそうなものが急につながったりします。こういう経験があつて自分は物理に魅力を感じているのだろうとなんとも思っています。じゃあ、その瞬間を再現するためにわかりやすい授業をしようということになりますが、当たり前のことではあるし、高専の授業の中で色々な物理の関連性を示すのは難しい。

とりあえず今は私が楽しそうに真面目に物理を語っている姿で、何か感じてもらえればいいなと思っています。



# 新任教員紹介

## 新任のご挨拶



情報知能工学科 助教

新村 貴之

令和7年4月に情報知能工学科に着任した新村と申します。初めまして。出身は北海道で、佐世保とは真逆な気候の土地からやってきました。南ならではの植生や風景というのは大変に新鮮に感じます。

専門は数学（微分方程式）で、担当科目や学生指導ではそのことを生かしながら高専教育に貢献できたと、日々試行錯誤を行っております。その過程で新しく覚えるべき事項も多く出てきたりしますが、それもまた新鮮でこのような形で自身も学びの場を得られていることに深く感謝を覚えます。

高専の学生の指導に携わるのは初めてですが、佐世保高専の学生の自立性の高さには日頃から驚かされます。日頃からの生活面はもちろんのこと、行事においての主体的な動きは素直に感心させられました。私自身もまた少しでも皆さんの学生生活が充実したものになるための一助になればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 新任のご挨拶



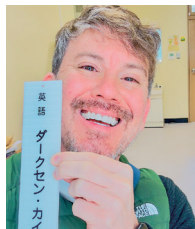
基幹教育科 教授

蒲地 祐子

はじめまして。呉高専から来た蒲地祐子と申します。出向制度により二年の予定で単身赴任しました。専門は英語教育と英文学で、シェイクスピアの詩劇を社会・文化と絡め研究しています。一年目は、学校に慣れることや英語教育、担任として学生に寄り添うことに邁進しました。大過なく終えられたのは、教職員の皆様の温かい支えのお陰です。

同じ高専でも学生の自主性には驚かされました。特に体育祭での応援団の演武は、日頃の練習の成果が発揮された見事なもので、呉の学生にも見せたいほど心に残りました。その背景には、伝統ある佐世保高専の風土があると感じています。残り一年、本校の良さを沢山発見し、学んだことを今後の高専教育に活かしたいと思っています。引き続きよろしくお願いいたします。

## 新任のご挨拶



基幹教育科 講師

ペンスダークセンカイ

Hello! My name is Kai! I am a teacher & English Communication and writing. My specialties include project-based learning and STEAM conceptual education. I am extremely happy to be teaching at Sasebo Kosen! Now that my first year has been completed, I know how wonderful the students, my fellow educators and ALL the staff are! It has been a fantastic first year and I'm looking forward to many more to come! Every day is a great day for learning something new... So I hope to make every day count to the fullest! Best to you all, Kai

# 令和7年度主要行事日程

|                       |                                                                                        |                       |                                                                                                 |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>4</b><br>April     | 3(木) ■ 入学式<br>7(月) ■ 始業式<br>7(月)・8(火) ■ 新入生オリエンテーション<br>23(水) ■ 開校記念日<br>◆その他主な行事：健康診断 | <b>10</b><br>October  | 12(日) ■ ロボコン九州地区大会(予定)<br>15(水) ■ 学生会長選挙<br>19(日) ■ 体育祭<br>◆その他主な行事：卒業研究中間発表                    |
| <b>5</b><br>May       | 14(水) ■ 学生会総会<br>30(金) ■ 高総体開会式<br>31(土)～ ■ 高総体                                        | <b>11</b><br>November | 2(日) ■ 文化祭<br>8(土)～11(火) ■ 九州沖縄地区高専体育大会(ラグビー)<br>26(水)～12/1(月) ■ 後期中間試験<br>16(日) ■ ロボコン全国大会(予定) |
| <b>6</b><br>June      | ～6(金) ■ 高総体<br>5(木)～10(火) ■ 前期中間試験<br>◆その他の主な行事：寮長選挙                                   | <b>12</b><br>December | 11(木) ■ 競技大会<br>20(土)～1/5(月) ■ 冬季休業<br>25(木) ■ 推薦入学試験<br>◆その他の主な行事：寮長選挙                         |
| <b>7</b><br>July      | 上旬～中旬 ■ 九州沖縄地区高専体育大会<br>6(日) ■ 保護者懇談会<br>◆その他の主な行事：厦門理工学院教員・学生受入、公開講座                  | <b>1</b><br>January   | 6(火) ■ 授業開始<br>16(金) ■ 寮祭<br>29(木) ■ 専攻科特別研究発表会<br>◆その他の主な行事：全国高専ラグビー大会                         |
| <b>8</b><br>August    | 4(月)～8(金) ■ 前期定期試験<br>9(土)～9/28(日) ■ 夏季休業<br>23(土) ■ 1日体験入学<br>◆その他主な行事：公開講座、全国高専体育大会  | <b>2</b><br>February  | 8(日) ■ 入学試験<br>12(木)～18(水) ■ 後期定期試験<br>20(金) ■ 終業式<br>21(土) ■ 学年末休業はじめ<br>◆その他の主な行事：卒業研究審査・発表会  |
| <b>9</b><br>September | 7(日) ■ 保護者懇談会<br>29(月) ■ 後期授業はじめ<br>◆その他の主な行事：4年生工場見学                                  | <b>3</b><br>March     | 19(木) ■ 卒業式                                                                                     |



## 学科長より

### 今年度を振り返って



機械制御工学科長 教授

#### 森 川 浩 次

5年生・専攻科2年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

さて、本年度を振り返ってみますと、4月の入学式・始業式などの式典と同時に、5年生の進路（就職・進学）活動のサポートを昨年度から継続して開始しました。高専卒業生の社会での活躍が多く、多くの企業で知れ渡ること、国内企業や外資系企業から届くメール・電話・封書は例年を上回る勢いとなりました。企業の採用活動早期化に伴い、学生がまだ4年生であっても面接試験が実施され、私も昨年度から進路サポートに追われる日々でした。後期が始まり、4年生のインターンシップや1～4年生の工場見学旅行を無事に終え、5年生の進路もほぼ全員が企業の内定または大学への編入学合格を決定している状況となり、ほっと一安心できました。我が国が抱える人口（特に労働人口）減少の課題は企業において深刻で、内定式が終わった10月初旬を過ぎるとすぐさま現4年生の採用活動がスタートしました。企業の採用活動はますます早期化しており、例年にも増して就職戦線は過熱しています。

おかげさまで、高専機械工学系出身者の企業内における評

価は高く、俗に言う大企業から高度な技術力を有する中小企業まで、本校機械工学科だけでも毎年約1,800社近くの企業から募集が舞い込んで来るようになりました。

このように、学生の進路活動をサポートする傍ら、一日体験入学やDIGI+入試、さらにはその特別講座といった中学生を対象とした学校イベントにおいて、同時5軸加工マシンニングセンタやドローンを活用した機械制御工学科ならではの導入教育も実施できました。今後は、本校を志望する中学生だけでなく本校学生への次世代ものづくり教育として、これらの先端加工機械を用いた実践教育を実施する計画です。

機械工学科そして機械制御工学科（本年度4月入学生から適用）における教育・研究活動にどうぞご期待ください。

## 授業紹介

### 水力学・流体力学・粘性流体力学・流れ学



機械制御工学科 教授

#### 中 島 賢 治

○「風の形」を見たことはありますか？ 見えない世界をデザインする科学～「理系って、堅苦しい数字の世界？」そんなイメージを変える、実はとてもアーティスティックな「流体」の世界へようこそ。

○目に見えない「空気の通り道」を見つける

走っている車の窓から手を出したことはありますか？ 手のひらの角度を変えると、風がぐっと手を押し上げたり、後ろへ持っていこうとしたりします。手は見えていますが、そこにあるはずの「空気」は見えません。流体力学は、そんな目に見えない空気や水の「流れ」を、数学を使って「見える」ようにする学問です。

授業は4年間かけて段階的に学びます。高専4年では「なぜ飛行機は飛ぶ？」といった疑問を基礎から解明。5年では、水や空気の「ネバネバ」や「不規則な渦」など、よりリアルな動きを学びます。さらに専攻科では、難しい偏微分方程式に挑戦し、コンピュータの中に「デジタルの風」を吹かせて未来の車などをデザインする技術を習得します。

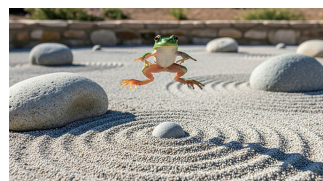
○「わかる」を「できる」に変える黄金サイクル

「難しそう…」という心配は無用です。この授業には、知識を確実に定着させる学習のルーティンがあります。

1. 授業中：講義は短く。記憶が新鮮なうちに、その場で課題を解く。
2. 家で：授業でやったのと同じ問題を、家でもう一度解く。
3. 試験前：家で解けなかった問題だけ、試験前にリベンジする。「新しい問題を次々と」ではなく、「同じ問題を確実に」。このサイクルを繰り返すだけで、自然とテストで80点以上が取れる実力が身につきます。

○先生からのメッセージ

流体力学は、まだ謎も多い「ロマンのある学問」です。空気の流れという「見えないもの」が見えるようになった時、いつもの風景が少し違って感じるはず。文系・理系問わず、好奇心がある人ならきっと夢中になれる授業です。



## クラス紹介

### 1 M

私たち1年M組は、機械制御工学科の元気あふれる仲間が集まったクラスです。学科の特性から日頃から実習や課題に共に取り組む機会が多く、その中で自然と強い団結力が育まれました。

最大の自慢は、男女の垣根が全くなく、クラス全員が「仲良し」であることです。行事の際には全員で協力して素晴らしい集中力とチームワークを発揮しました。明るく前向きなエネルギーを持ちながら、互いを尊重し合える最高のメンバーです。この強い絆を武器に、これからも技術の習得と最高の思い出作りに邁進していきます



### 2 M

こんにちは！2年機械工学科です。2Mはいつも元気で明るく、仲の良い楽しいクラスです。学習面では、1年生の時に比べて専門科目が少しだけ増え、新しいことを学びながら全員が進級するために努力しています。生活面では、元気づけて怒られるのが玉に瑕ですが、競技大会や文化祭などのイベントでは一致団結して全力で楽しんでいます。そのおかげでクラスの絆は去年よりもより深まりました。3年生では将来について考える時間を増やしつつ、学校生活をもっと楽しみたいのです。



### 3 M

3Mは今年度も明るく、元気なクラスです。また、何事にも熱意をもって全員で取り組むクラスです。この熱意は、体育祭や競技大会で表れます。特に、体育祭での競技中の応援は非常に盛り上がりがありました。また、この熱は試験前にも表れます。放課後に、教室や図書館に集まって勉強に取り組む姿からは熱が伝わってきます。

来年度は4年生となり、将来に向けてより一層、自分自身と向き合わなければなりません。そして、クラスメイトの協力も欠かせません。一人一人の将来のために、熱意をもって助け合えるクラスを目指していきたいです。



### 4 M

佐世保工業高等専門学校 機械工学科4年です。男子34名、女子5名の計39名で構成される私たちは、学内でも指折りの「明るさ」と「行動力」を誇るクラスです。

私たちの最大の武器は、圧倒的な団結力です。特にスポーツへの情熱は凄まじく、学内の競技大会では常に上位を独占。泥臭く勝利を掴みに行く姿勢は、機械工学科らしいタフさを象徴しています。現在は、ついに始まった就職・進学活動という大きな壁に全員で立ち向かっている最中です。持ち前の「最強のチームワーク」を武器に、それぞれの夢を掴み取ります！





## 5年間をふりかえって

### 5年間を振り返って

機械工学科 5年

川 本 一京太

高専生活の5年間を振り返ると、特に最後の1年間（5年次を留年した後）が最も楽しく、深く心に残っています。留年生の僕にも周りは今まで通り接してくれて、テスト勉強や球技大会など、さまざまな場面で協力し合いながら充実した時間を過ごすことができました。球技大会ではサッカーに参加し、ヘアバンドを付けて気持ちをひとつにして臨んだ姿が印象的でした。途中で雨天中止になったものの、それまでの間は声を掛け合いながら、仲間と過ごす時間の楽しさを改めて実感しました。テスト勉強では、卒業研究の研究室メンバーと集まって勉強し、休憩時にはミスタードーナツでポケモンコラボのドーナツを食べて息抜きしました。そうした何気ない日々の積み重ねが、最後の一年をより幸せで温かいものにしてくれたと感じています。



### 5年間を振り返って

機械工学科 5年

都 甲 刻



高専での5年間を振り返ると、最初は専門科目の多さやレポートに戸惑うこともありましたが、勉強を続けるうちに少しずつ理解が深まり、自分の成長を感じられるようになりました。授業や課題を通して基礎から応用まで幅広く学び、「どうしてこうなるのか」を考える習慣が身についたことは大きな収穫です。

また、クラスメイトと課題に追われたり、文化祭で準備に走り回ったりする中で、協力し合う大切さも実感しました。互いに支え合い、うまくいった時には一緒に喜べる仲間の存在は、この5年間の大きな支えでした。

この5年間は、自分で考えながら進んできた時間でもあり、その積み重ねが判断力や責任感につながっていると感じています。ここで得た経験をこれからの進路に生かし、さらに成長していきたいと思います。



## 卒業研究

### フロースルー型電気穿孔法における細胞塊の分散

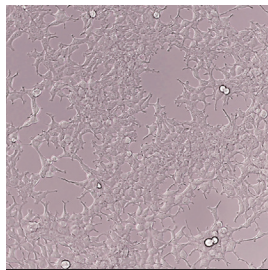


機械工学科 5年

井上 優人

近年 iPS 細胞は医療や創薬の分野での活躍が期待されています。iPS 細胞を作成するには、必要な 4 つの遺伝子を細胞内部に導入する必要があります。

遺伝子導入方法の一つとしてフロースルー型電気穿孔法というものがあります。この方法は、流路内を通過する細胞に電極間で電圧を印加し、細胞膜に一時的な孔を形成させ、その孔を介して外来遺伝子を導入するものです。電極間を通過する際に細胞が塊になって通ると、電圧を印加しても孔が生成されずに、電気穿孔が失敗しやすい状態となります。細胞が塊にならないような流路を設計・考案することが私の研究目的となっています。本年度は、今まで豊橋技術科学大学で製作していたマイクロ流路を、本校のミニマルファブを利用して製作できるように実験を行っています。



### ロボットによるフラフープ運動の実現に向けて



機械工学科 5年

大戸 優輝

近年、人手不足の解決策として期待される人型ロボットですが、従来の動きは硬く、人間社会への適応に課題があります。自然で滑らかな運動の多く

は人間の技巧的な動作に集約されます。私たちはここにロボット制御のヒントがあると考えています。私の研究では、技巧的動作の代表例としてフラフープ運動の実現に取り組んでいます。この運動は、体のしなりや素早い関節の動き、転がり拘束など、ロボットの高度な制御を実現するための要素が凝縮されています。この実現のため、人間の体幹部を模したリンクロボットのモデルを想定し、モーターのトルクを運動に適した強さで正確に操るための検証と、ロボット自体の設計を進めています。特に、ロボットがフラフープに与える力の加減を、人間のよう繊細かつ正確に調整するための制御方法に注力しています。



## 教員研究

### き裂進展を熱応力で制御する脆性材料加工技術の研究



機械制御工学科 助教

久保田 慎一

近年、EV などパワー半導体をはじめ半導体ウェハの需要が増加しています。

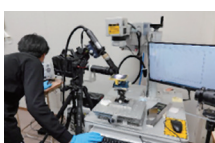
これに伴い、半導体の生産性を上げるためウェハ加工の高効率化が求められています。特にパワー半導体分野においては、次世代材料であるダイヤモンドや窒化アルミニウムなども含まれる「ウルトラワイドバンドギャップ (UWBG) 半導体」に向けた研究開発も必要があります。

我々の研究室では、き裂をコントロールすることで脆性材料（シリコンウェハやガラス板、セラミックなどを代表とする脆い材料）を分断し美しい加工表面を得ることができる

レーザ加工方法として「熱応力割断」の研究を行っています。スライス加工技術や、ダイシング加工技術への応用に向けて課題となるき裂開口応力を生み出すための加熱領域の生成について、実際にレーザを用いた加工実験に加え FEM 解析ソフトを用いた熱応力解析によるき裂進展メカニズムの解明に取り組んでいます。

一例を挙げると、き裂先端形状の観測はメカニズムの解明にとっても重要ですが観測は非常に困難です。そこで、材料内部の密度変化を観測できる特殊な装置として偏向高速度カメラを用意しており、内部の見えないき裂の観測に向けた研究などを進めています。

学会への参加も積極的に行っており、より高い目標を持った研究活動と他大学の研究者や学生との交流を通して、技術者として更に成長する機会になることを研究室学生に期待しています。



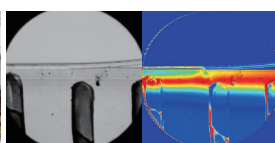
レーザ加工様子①



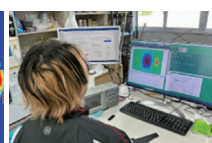
レーザ加工様子②



偏向高速度カメラで観測



き裂観察画像



熱応力解析の様子



学生による学会発表



## 学科長より

### 「熊」



電気電子工学科長 教授

川崎 仁 晴

電気電子工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。入学直後のコロナ禍や、国際情勢の変化に伴う円安、ウクライナやイスラエル等の戦争等々、この5年間で様々なことがありました。それにも負けずに皆さんが無事、卒業を迎えられたことに対して心より感謝するとともに、お祝いを述べたいと思います。

さて、例年年末に京都・清水寺で森貫主によって披露される「今年の漢字」。令和7年は「熊」でした。今年は特に、熊が人を襲ったというニュースが多かったような気がします。原因は様々だと言われていますが、人間たちがよりよい生活を行うために作り出した地球温暖化物質が地球温暖化と熊の餌不足を引き起こし、空腹となった熊が生きたために人を襲った、とも考えられます。そう考えると、逆に人が熊を襲いつづけてきたという考えからできます。ともあれ、安

易に駆除し、熊のいない環境を作り上げても、いつかはそのつけが災いとなって人間に向かって襲いかかることは十分考えられます。熊と人間が共存できる社会を電気の技術で作れるよう、考えてみてはどうでしょう。

もう一つ、熊と言えば、動物園の人気者パンダも、漢字で書くと「熊猫」。こちらの熊は台湾が原因の「日中関係の悪化」によって皆母国に帰ってしまうようです。本来、日本も中国も台湾も、向かう敵は「半導体不足」。反目するのではなく、より安価で高性能な半導体開発にむかって、日中も台湾も共存すべきなのですが、卒業する皆さんも、電気科で学んだ技術で、共存を果たし、より大きな問題を解決できるようさらに精進されてください。

## 授業紹介

### 本科授業「IoTセンシング」のご紹介



電気電子工学科 教授

川崎 仁 晴

いきなりですが問題です。地震の震度は平成7年以前、どのように決められていたでしょう。

- ①気象庁にある振り子の振幅、
- ②気象庁職員の体感、
- ③気象庁で飼っているナマズの電圧

答えは②。つい30年前まで人間が感覚で決めていました。どう思いますか？（今はきちんとした計測震度計で計られます）

私が行っている「IoTセンシング」の授業では、様々な物理量の計測方法を教えています。例えば時間。1時間というのは、これまで太陽や月と地球の動き、日照時間などから、1年や1日が決まり、1日を6の倍数で割ることで決まっていた。しかし、いまでは太陽に対する地球の公転と自転は少しずつ変わっていく事が明らかになっていて、今年と来年では1年の長さが異なることがわかっています。普通の

人が普通に生活をする上では、全く支障は無いのですが、我々技術者は、それではちょっと困ったことになります。ですので今では「1秒」が正確に「セシウム133の原子の基底状態の二つの超微細構造準位の間の遷移に対応する放射の周期の9192631770倍」と定められています。これ以外にも長さは、「真空中で光が1/299792458秒に進む距離」ですし、質量に至っては、「プランク定数を $6.62607015 \times 10^{-34} \text{ J s}$ とすることによって定義する」と重さですらなくなっています。この授業ではこういう複雑な物理事象を電気信号にして利用する事を学んでいます。これらの電気信号はすぐにデジタル化されて、PC等に取り込まれ、車の自動運転などに利用されています。皆さんも、計測することの意味を深く考えると面白いかもしれません。

## ク ラ ス 紹 介

## 1 E

一年生は、高専生活の第一歩を踏み出し、新しい環境に真剣に向き合う学年です。専門の基礎科目やこれまでにない学習スタイルに戸惑いながらも、日々の授業に一生懸命取り組んできました。1Eでは、分からないことがあれば友人同士で教え合い、少しずつ「高専生」としての土台を築いていきました。まだ慣れない行事やクラス活動の中でも、1Eらしい素直さと好奇心が光ります。休み時間の何気ない会話や、行事の準備で見せる全力さには、初々しさと元気があふれています。失敗や緊張も、ちょっとした自信も、全部まだ新品で全部これから色がつく。多くのことを吸収し、仲間と共に大きく成長していきます。



## 2 E

私たち、二年電気電子工学科はとても元気があって明るいクラスになっています。男女のわだかまりがなく、とても仲がいいです。また、スポーツが得意なことも特徴の一つで今年度の後期に行われた競技大会の下級生の部で総合優勝を収めました。しかし、私たちのクラスは勉強が少し危なく、平均点が四学科の中で最も低いです。そのため、過去問を共有したり、勉強を教えあったりして赤点を取らないようにみんなで協力して一生懸命に勉強をしています。そんな楽しいクラスで私は学校生活を過ごしています。



## 3 E

三年生となり、本学級では何事にも一生懸命に取り組む姿勢が、より一層強く感じられるようになりました。専門教科が増え、レポートや追試に追われる人の姿も見られるなど、学習面では厳しさが増えています。しかし、そのような中でも、グローバルテラシーに代表される学級の枠を越えた研究活動に主体的に取り組み、互いに刺激を受けながら学びを深めています。また、体育祭や球技大会に向けた練習も活発で、すでに次年度の応援団について話題が上がるなど、先を見据えた行動も見られます。資格試験や研究活動、留学など、将来を見据え、自ら、あるいは仲間を誘いながら課題解決に取り組む姿が、この学級の大きな特徴です。今後は、四年次を見据え、これまでに培った主体性と団結力を基盤として、より高い専門性と責任を持って学業および諸活動に取り組んでいきます。



## 4 E

4Eは、四年生としての責任を持ち、毎日の授業に真摯に向き合うクラスです。専門科目が難しくなっても互いに助け合い、着実に学びを深めてきました。

就職活動や進学準備、インターン、企業説明会など多くの行事に取り組む中でも、4Eには変わらず遊び心があります。海外研修では、サングラスを購入した数々が、旅先の雰囲気に誘われるように自然とポーズ大会を始めるという、不思議な一体感を見せました。夕日に染まる現地の街並みを背に並んだその姿は、研修の一場面でありながら、まるで映画のワンシーンのようでした。

残りの高専生活も、4Eらしい誠実さと確かな歩みで進んでいきます。





## 5年間をふりかえって

### 5年間を振り返って



電気電子工学科 5年

鹿山 歩夢

私はこの5年間、学級委員長としてクラスをまとめてきました。球技大会では毎回、1～2か月前から皆で練習を重ね、計8回の総合優勝を達成しました。体育祭では4年次に応援団として参加し、応援合戦で優勝を経験しました。文武両道の中でも特に運動に力を入れ、仲間と一体になって結果を追い求めたクラスだったと感じます。文化祭では毎年メインステージでダンスを披露し、4・5年次はダンス同好会部長としてステージを盛り上げました。

勉強面では資格勉強や定期テスト対策に苦しむこともありましたが、「留年せず卒業する」という目標に向けて努力を続けました。この粘り強さは、就職後も必ず活かせる力だと思います。

振り返ると、この5年間は密度の濃い時間であり、自分の成長を実感できる期間でした。



### 5年間を振り返って



電気電子工学科 5年

中野 ひなた

私は15歳から20歳までの5年間を高専で過ごしました。この時間は、人生において軸となるものを形づくる期間だと感じています。

勉強や遊び、アルバイトなど過ごし方はさまざまだと思いますが、私は「これに一番力を入れた」と即答できません。むしろ、がむしゃらに多くのことへ挑戦してきた時間だったと思います。

部活動、ビジコン、バイト、フィリピン留学、研究、趣味など、新しいことに次々と挑戦しました。その経験を通して、入学前の自分と比べて「何でもやってみよう」と思える自分になれたと感じています。一方で、自分にはできないことも多いと気づきました。

高専卒業後は大学へ進学します。これからも挑戦を続け、自分自身を進化させていきたいと思っています。

みなさんも、成長させたいものを大切にしながら、残り的高専生活を全力で楽しんでください。



## 卒 業 研 究

## 組み込みデバイスを用いた両極性複合パルス電源の開発

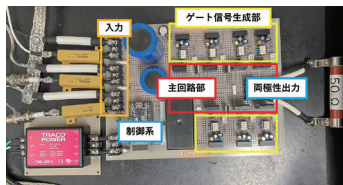


電気電子工学科 5年

濱 浦 理 央

パルスパワー技術とは、蓄えられたエネルギーを時空間的に圧縮することで瞬間的に大きなエネルギーを得る技術です。近年、この技術を使用した

がん治療など、医療面での応用が期待されています。この中でも、私の研究室では「エレクトロポレーション」という方法での応用を目指しています。電場を利用して細胞膜に一時的な穴を形成し、細胞外の物質を細胞内に入れるのです。このような生体反応を発生させるためには、目的や環境などに合わせた高度なパルス制御が必要です。そのため、私の研究では、組み込みデバイス(制御系)を使用し、出力された高電圧パルスが一度の出力で異なる電圧値に切り替えることのできる両極性複合パルス電源の開発を行いました。実際に作成した電源は、三つの異なる電圧値の高電圧パルスを任意の順番と秒数で出力できます。



## eGGsライブラリのLinuxへの移植に関する研究



電気電子工学科 5年

須加崎 孝 紀

私の卒業研究は、Windows専用グラフィックライブラリ「eGGs」のLinuxへの移植です。佐世保高専では、主にC言語によるプログラミング教育を行なっています。

C言語は標準では文字しか表示することができません。これを通常のアプリケーションと同じようにグラフィカルに表示できるWindows専用補助プログラムを私たちの研究室で開発しています。

近年教育に用いられるOSの一つにLinuxがあり、これに移植するのが私の研究です。

昨年度までに基本的な図形表示、PNG画像の表示まで移植が完了しています。

今年度は、主に写真などで使用されるJPEG画像、Windowsで主に使用されるBMP画像に対応したほか、特に難易度が高い文字表示機能などを実装し、二つのOSで同じ動作をさせることができました。



## 教 員 研 究

## 半導体を活用した電子回路によるシステム設計



電気電子工学科 教授

下 尾 浩 正

電気電子工学科は、社会基盤技術を支えるエネルギー、半導体および情報通信に関連する知識・理論・技術を学ぶ学科です。本研究室では、その中

でも電子情報工学を専門とし、半導体を用いた電子回路を活用して、情報通信技術の観点から課題解決に取り組んでいます。

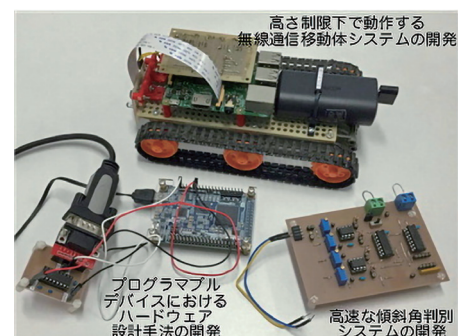
現在取り組んでいる研究テーマは大きく3つに分かれます。1つ目は「高速な傾斜角判別システムの開発」です。地震などの自然災害による物体の転倒を防ぐため、できる限り高速に物体の傾きを検知し、転倒防止装置と組み合わせることで、二次被害防止を目指しています。光を利用したセンサと、人間の神経の仕組みを模した電子回路を組み合わせ、高速な判別を実現しています。

2つ目は「高さ制限下で動作する無線通信移動体システムの開発」です。OA (Office Automation) フロアなど高さに制限のある空間で、配線状況の調査などを想定しています。制限のある空間では移動体が突然制御不能に陥ることによる通信や、移動体を直接視認できない状況下での制御の課題解

決に取り組んでいます。通信機や多数のセンサを使うため、システム設計の面白さがあります。

3つ目は「プログラマブルデバイスにおけるハードウェア設計手法の開発」です。プログラマブルデバイスとは、用途に応じて回路自体の構成を変更できる半導体デバイスです。ソフトウェアとハードウェアを組み合わせるための効率的な設計手法を探索し、将来の技術に対応できる柔軟な設計手法を研究しています。

学生たちは実験や設計を重ねながら、実践的な技術力を磨いています。研究は簡単には進まず、地道に実験を重ねる姿勢が自身の成長につながります。





## 学科長より

### 電子制御工学科/情報知能工学科の学生に期待すること



情報知能工学科長 教授

手島 裕 詞

2025年度は、情報知能工学科の一期生を無事に迎えることができ、教員にとっても新しいスタートとなりました。新しい学科が動き始めたことで、教育の在り方や学生に求められる力について改めて考える機会にもなりました。また、新学科構想とあわせて電子制御工学科の教育内容を、より社会ニーズを捉えたものへとアップデートする議論ができたことは、非常に意義深いことだったと感じています。

高等教育機関も時代に即した変化を求められる一方で、社会はさらに速いスピードで変化しています。そのような時代だからこそ、むしろ冷静に変化を俯瞰し、技術者として大事な基礎をおろそかにせず、目の前の学業に集中してほしいです。佐世保高専での座学や実験、そして主体的活動を積み重ねていくことは、難しい時代が訪れても切り拓いていくための基礎力や適応力を高めることになりますし、将来、豊かな

社会を作っていく立場で活躍できる力になると信じています。また、学科のカリキュラムでは、最前線で活躍されている企業技術者による講話や、各業界の現状と展望を皆さんに知ってもらう機会を積極的に取り入れています。特にAIをはじめとする高度な情報技術の活用だけでなく、情報倫理や法規といった全学生が身につけるべき内容については、通常の授業内容に加えて、別途専門企業にも依頼し実践的な講義をしてもらっています。

最後に、就職の責任者として、企業の採用担当者の方と面談する機会も多いのですが、企業の方々は高専生の技術力そのものには大きな信頼を寄せています。そのうえで、行動力やコミュニケーション能力、そして困難に直面してもやり抜く力といった、人としての総合力をより重視していると感じる場面が増えていきます。皆さんには、高専での日々の学びを通してこのような力も育んでいってほしいと思っています。

## 授業紹介

### プログラミングⅠ（1S）



情報知能工学科 准教授

佐 当 百合野

Q. どのような授業ですか？

A. 1年生を対象としたプログラミングの入門授業です。「プログラムとは何か」という基本的な考え方から学び、コンピュータに自分の考えや指示を正しく伝える方法を身につけます。本授業ではC言語を用い、文法だけでなく考え方も重視しながら、実際に手を動かして学習を進めていきます。

Q. プログラミングをやったことがなくても大丈夫ですか？

A. 大丈夫です。この授業は、初めてプログラミングを学ぶ学生を対象としています。基礎から丁寧に進め、例題や実習を通して少しずつ理解を深めていきます。パソコンで自分が書いたプログラムを実際に動かすことで、「分かった」「できた」という経験を重ねることができます。

Q. 授業はどのように進みますか？

A. 講義と実習を組み合わせる授業を行います。情報AL室

で各自のノートパソコンを使い、プログラムを作成しながら結果を確認します。自分で考え、試し、直すという流れを大切にしています。

Q. 何ができるようになりますか？

A. 基本的なプログラムを自分で考えて作る力が身につきます。また、物事を順序立てて考える力や、失敗してもあきらめずに取り組む姿勢を育て、今後の専門的な学習につなげます。

Q. プログラミングを楽しむには？

A. むずかしく考えすぎず、まずは実際に動かしてみることです。「動いた!」という小さな発見や達成感を積み重ねることで、楽しみながら学ぶことができます。



## クラス紹介

### 1 S

1 Sは、国語・数学といった基幹科目に加え、情報技術の基礎知識・技術を学習するクラスです。高校1年生の段階で情報技術を学ぶというと、不安を感じる方もいらっしゃると思います。しかし、先生方はわかりやすい教材を用い、実践的で興味深い講義を行うため、初学者でも安心して講義に取り組むことができます。

一方で、学習内容を身につけるためには自主学習も欠かせません。テスト前から計画立てて勉強することができなかった学生は、その多くが赤点を取っていました。ただ、各教員はテスト前の学習方法を丁寧に指導するため、適切なテスト勉強を行えば、その心配はいりません。



### 2 S

私達2年電子制御工学科は、明るく活気にあふれたクラスです。テスト前にはクラスのみんなで声をかけ合い、教え合いながら勉強に取り組んでおり、その積み重ねによって他クラスよりも高い平均点を保っています。また、競技大会などの行事にも真剣に向き合いながら、全員で楽しむことができるのがこのクラスの魅力です。これからも仲間同士で支え合い、一致団結して成長していきたいと思っています！



### 3 S

読者の皆さんこんにちは3Sです。私たちのクラスとはにかくパワフルで元気いっぱいなのが自慢です。毎日教室には笑い声があふれていて、エネルギーが有り余っています！レポート・課題・テストに追いかけて回されがちな3Sですがみんな自分なりに頑張っています。最近は将来の進路についても少しずつ考え始め、それぞれが自分の夢や目標に向かって悩んだり話し合ったりしています。協力すること、全力で楽しむこと、やるべきことを忘れないようにこれからも前向きに成長していきたいと思っています。みんなで4年生に、いや5年生に、いやみんなで一緒に卒業します！！



### 4 S

こんにちは、電子制御工学科4年の学級委員です。高専に挑み始めて早4年、入学した時のことを思い返すと、とてもファンキーで愉快的な教授が教卓に立っており新米高専生の僕らを1年間鍛え上げてくれました。それから月日は流れ、我々は成長し、その教授は消え（来年から戻るみたいです）、学科の名前が変わりました。電子制御は情報知能に、時代に合わせて変わってるのかなあ。色々なものが変わっていきますが、逆に変えない方が良いものもあると思います。その変えてはいけない大事なことを教授は教えてくれました。その教えを胸に残りの1年を謳歌します。





## 5年間をふりかえって

### 5年間を振り返って



電子制御工学科 5年

松本 歩華

希望を胸に入学したあの日からはや五年。気づけば、卒業の時期がすぐそこまで迫ってきました。

この五年間、私は「挑戦」という言葉を大切にして日々過ごしてきました。学生会活動やEDGE活動、応援団など、数多くの新しい世界に自ら飛び込み、その中で多くの経験とかけがえのない出会いを得ることができました。中でも応援団は、入学前から抱いていた憧れの活動であり、最後の参加となる四年生で幹部として活動できたことは、学生生活を象徴する最高の思い出です。また、こうした課外活動だけでなく、毎日の学生生活もとても充実していました。専門分野の授業や先生方・友人たちとの会話、クラスで臨んだ競技大会など、全て私の日々を彩る大切な時間でした。

後輩の皆さんにも、ぜひ一歩踏み出して新しい世界に自ら飛び込み、挑戦し続けてほしいと思います。



### 5年間の思い出



電子制御工学科 5年

森 優 佐

入学してから5年間が過ぎたということ信じられないほどこの5年間はあっという間でした。多くの人や出来

事と出会い、様々な経験を得ました。

僕は「いろいろやってみる」ことを大事にしてきました。ビジネスプランコンテスト、ものづくりコンテスト、Deep Learning コンテスト、高専ロボコン、サイバーセキュリティボランティア等々たくさんを経験しました。

高専ロボコンでは、3年生でチームリーダー、4年生で部長を務め、回路設計や基板設計を担当しました。通常の高専生活では得られない実践的なことをたくさん学びました。加えてロボット製作を通して多くの仲間を得ることができました。高専生活の思い出の多くは、ものづくり工房にあるように感じます。

到底350文字では綴ることのできない、かけがえのない経験を得ました。ありがとうございました。



## 卒業研究

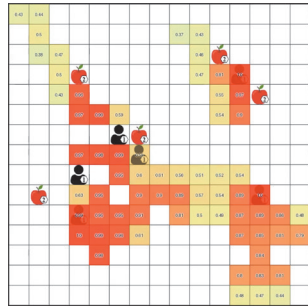
## エージェント数の変動に対して頑健なマルチエージェント強化学習手法の検討



電子制御工学科 5年

豊田 虎

強化学習とは、エージェントが試行錯誤を通じて行動を学ぶ技術であり、掃除ロボットや自動運転車などへの応用が進んでいます。本研究では、エージェント数が途中で変化しても安定した協調行動を維持できる強化学習手法の検討を行いました。具体的には、アリのフェロモンが持つ間接的な情報共有の性質を部分的に取り入れ、一般的な手法であるPPOとの比較を行いました。複数エージェントが協力して資源を回収するLevel-Based Foraging環境を用い、人数変化時の性能低下や回復までに要する時間を評価しました。本手法は、多数のロボットが協調して動作する実環境への応用が期待されます。



## Mixed Realityを用いた放射線デジタル教材の開発



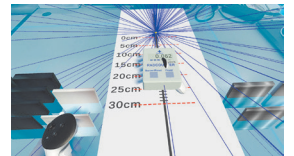
電子制御工学科 5年

中村 柊介

私は、現実空間と仮想空間を融合するMRを用いて、放射線について学習できる教材の開発を行っています。

近年では、放射線教育の重要性が高まっています。しかし、放射線は目に見えないため、性質やリスクを理解することは難しいです。そのため、放射線について視覚的かつ体験を通じて学習できる教材が必要とされています。

私が開発した教材では、仮想の測定器で放射性物質（実物または仮想物体）の放射線量の測定を行います。MRを用いることによって、現実空間と仮想空間の相互作用が可能となり、放射性物質から出ている放射線や、放射線量と距離の関係を再現しています。また、鉛やアルミニウムなどの遮蔽物の有無によって、測定値が変化していく様子も再現しています。このように、従来の教材にはなかった体験的な学習を安全に行うことができます。



## 教員研究

## 地球・月・火星の地下洞窟探査ロボットの開発と検証



情報知能工学科 教授

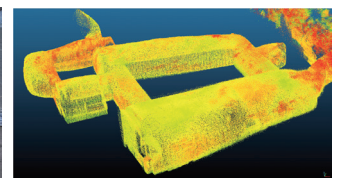
前田 貴信

21世紀初頭、軌道探査機の解析によって月や火星に巨大な縦孔が発見され、その先には「溶岩チューブ」などの広大な地下洞窟が存在すると推定されています。これらの空間は、放射線や隕石、激しい温度変化から保護されているため、将来の人類居住基地の有力候補として期待されています。本研究室では、宇宙航空研究開発機構JAXAが推進する「UZUME（ウズメ）」プロジェクトの一部に参画し、こうした地下空洞の科学的解明と空間利用に向けた探査技術の開発に取り組んでいます。このプロジェクトは、数学科の眞部教授や、ロボット本体を開発する筑波大学発ベンチャー企業と連携して進める多角的な取り組みです。

研究の重点は、探査ロボットの移動制御、および洞窟内部を計測するセンサー制御用の装置・ソフトウェアの開発にあります。洞窟内を自動または遠隔操作で移動しながら、詳細な地図を作成することで、未知の地下構造を明らかにするこ

とを目指しています。

現在は、将来の月探査を見据えた検証段階として、地球上の洞窟をフィールドとした実験を行っています。特に、佐世保市の防空壕跡である「無窮洞」を実証実験の場として活用しており、旧軍遺構の調査グループとも協力しながら、ロボットの動作検証と歴史的価値の記録を並行して進めています。図は、無窮洞での探査ロボットの動作実験中の写真（左）と、3D LiDARと呼ばれる自動車の自動運転などに用いられているセンサーを用いて洞窟内部の形状を計測し、立体的に表示したもの（右）です。





## 学科長より

### C科の進路状況とこれから活動する皆さんへのアドバイス



化学・生物工学科長 教授

城野 祐生

令和7年度の1年生より化学・生物工学科へ学科の名称が変わり、1年生は化学・生物工学科、2年生以上は物質工学科となっています。学科の記号はCのままですが、私達教員の所属は新学科の名称に併せて化学・生物工学科長という表記になっています。さて、今年度のC科の5年生の進路の状況とこれから活動する皆さんへのアドバイスを書きます。

まず、今年度の5年生の状況ですが、就職24名内定、進学15名合格で全員進路決定しています。進学のうち4名が専攻科、11名が大学への編入学です。以前C科は進学の方が多かったのですが、ここ最近は就職希望の方が多い傾向となっています。

高専は5年間ありますが、進路をはっきりして頂くのは4年生の後期になります。高専の就職の状況はとても良いです。

求人の数が1000件以上ととても多く、「学校推薦」で応募できるため合格率が高いです。ただし、注意していただきたいことがあります。まず、学校推薦で応募できるのは同時に1社のみということです。1000件の求人の中から1つを選ぶことになるので、どの企業を受けるかしっかり考えて判断する必要があります。また、もう1つの注意点は、推薦で受けるため合格したら必ず入社する、ということです。後から変更できませんので、やはり受ける前にしっかり考えなければなりません。

準備が大切ということです。企業研究に関するイベントとしては4年生の夏休みのインターシップ、後期に行われるOBOGのキャリアセミナー、企業技術セミナー、合同企業説明会などがあります。この中でもインターシップは1週間程度企業に滞在して直接企業のことを見たり雰囲気を感じたりできるため、企業を選ぶ上での貴重な機会であると思います。インターシップの申込は4年生の前期の間に行われます。つまり、就職を見据えて企業のインターシップに参加するためには4年生になる前にある程度企業のこと研究しておく必要があるということになります。進路選択は人生に係わる大切なことですので、早めの準備をお願いします。

## 授業紹介

### 高分子化学



化学・生物工学科 助教

嘉悦 勝博

Q. どんな授業ですか？

A. 私たちの身の回りはプラスチックやゴム、繊維といった「高分子材料」であふれています。実は、私たち人間もハイドロゲルから成る巨大な高分子の塊です。4年生の「高分子化学」では、これら現代社会や生命を支える材料がどのように作られ（合成）、どのような性質（特性）を持つのかを基礎から学びます。

低学年で学んだ有機化学や物理化学の知識が、具体的な「材料」という形に結びつく、専門性が一段と深まる科目です。単なる暗記ではなく、熱力学などの理論に加え、モノマーやひも状の高分子鎖の「気持ち」になって考える分子論的な視点を大切にしています。「なぜゴムは伸びるのか」「なぜゴムが伸びると発熱するのか」といった本質をミクロな視点から紐解き、化学が社会に実装されるプロセスを学びます。

Q. 工夫している点を教えてください

A. 前職の化学メーカーで高分子材料の製造や研究開発に携わってきた経験を活かし、授業では化学系エンジニアとしての視点や、現場での「当たり前」とされる実務的な知見を伝えることを大切にしています。例えば、透明な樹脂製品を二枚の大きな偏光板で挟む実演を行います。すると、成型時に残った目に見えない「ひずみ」が、複屈折によって鮮やかな虹色として浮かび上がります。ミクロな分子の並びが製品の品質に直結することを、肌で感じてもらうための工夫です。

こうした実体験を入りに、将来は、製品の裏にある「PE（ポリエチレン）」などの刻印を見たとき、要求される特性やコスト、製造法を考慮して「なぜその素材が選ばれたのか」を論理的に考えられるようになってほしいと考えています。単に知識を持つだけでなく、現場で「最適解」を導き出せる化学系エンジニアの育成を目指し、日々教壇に立っています。



偏光板によるひずみの可視化  
(複屈折現象)

## クラス紹介

## 1 C

私たち化学・生物工学科一年生は、男女比がほぼ一対一で、互いに声を掛け合いながら明るく楽しい学校生活を送っています。入学当初は中学校との違いに戸惑うこともありましたが、専門科目や実験の授業を通して、高専生としての学びに少しずつ慣れてきました。授業中やテスト前には、分からない部分を教え合いながら理解を深め、協力する姿勢が自然と身についています。二年次からは専門科目がさらに増え、学習内容も難しくなりますが、仲間と切磋琢磨しながら学びを深めて行く予定です。



## 2 C

私たち物質工学科2年生は、男子16名、女子28名の計44名で、女子がとても多いことが特徴です。クラスの約60%が女子であるため、たまに男子の肩身が狭いことがありますがとても楽しいクラスです。

球技大会や体育祭などのイベントではみんなで協力し合い楽しんでいます。バスケやサッカーなどは全敗ですが、卓球やモルックなどの器用さが求められる競技では、優勝しています。

努力家な人が多いため、他学科に比べてテストの平均点が毎回高いことが自慢です。これまで切磋琢磨して勉学に励んできたので、今度も助け合って頑張っていきます！



## 3 C

こんにちは！3C学級委員です。今年の3Cの一年間も落ち着いたもので大きなトラブルもなく生活してきました。3年生になって、専門教科の数が増えました。3年生は高専生5年間の折り返し地点です。進路について考え始めるクラスメイトも増え、様々な資格やTOEICの勉強や取得を目指して努力する学生も増えました。来年度の夏休みにはインターンがあり、自身の進路について考えなければいけない時期になっています。4年生では制服を着なくなり、大学生と同じ年齢になります。私服になっても気を緩めることなく、毎日コツコツと努力を続けていきたいと思います！



## 4 C

私たち4Cは、実験・レポート・課題に追われる日々を送りながらも、自分の課題に向き合っている高専らしいクラスです。得意分野は人それぞれで、計算が得意な人、実験操作に強い人、考察で力を発揮する人など、多彩なメンバーが集まっています。テスト前や追試前など分からないことがあれば教え合い、協力しながら課題を進める姿がよく見られます。一方で、レポートの締切が近づくとクラス全体が少し慌ただしくなり、提出直前に団結力が高まるのもこのクラスの特徴です。「なんとかなる」という雰囲気があり、互いに支え合いながら日々成長しています。





## 5年間をふりかえって

### 5年間を振り返って



物質工学科 5年

荒木 音羽

佐世保高専に入学し、あっという間に卒業を迎えることとなりました。入学当初は、クラスメイトみんなが賢いのだと身構え、周囲になじめるのか、勉強についていけるのかと不安でいっぱいでした。しかし、友達をつくることができ、支え合いながら充実した学校生活を送ることができました。なかでも、小学生の頃から公開講座や1日体験入学に参加し憧れていた白衣を着て、初めて実験に取り組むことができたときはとても嬉しかったです。さらに、高学年となり、かつて参加していたイベントで教える側として関わることもできたことは感慨深く、自身の成長を強く感じました。寮生活では、自立心や協調性が身につくとともに、家族の支えの大きさを実感しました。皆さん、短い高専生活の中で興味のあることを見つけ、悔いの残らないよう楽しく過ごしてください。



### 5年間を振り返って



物質工学科 5年

江頭 功暉

高専での5年間を振り返り、最も印象に残っているのは「自由に挑戦できる環境があったこと」です。専門分野の学びはもちろん、長期休暇には自分が本当に勉強したいことに挑戦でき、学ぶ楽しさを実感しました。失敗を恐れず挑戦できたことで、自分の可能性を広げることができました。日々の学校生活の中で、責任感や協調性も自然と身に付いたと感じています。

高専では大学受験に追われることがないため、時間をかけて自分の将来についてじっくり考えることができ、自分のペースで進路と向き合って進路をつかみ取ることが出来ました。高専でしか体験できない5年間という長い時間を共に過ごした仲間は、今ではかけがえのない存在になりました。高専生活は私自身にとっての財産であり、ここで学んだこと、得たことは必ず将来に役立つと感じています。



## 卒業研究

## 有郭乳頭味細胞におけるNavチャンネルサブタイプの解明



物質工学科 5年

福田 虎雄希

哺乳類の口腔内には味を感じるための小器官「味蕾」があり、舌の喉側の有郭乳頭や、舌先の茸状乳頭といった突起の上に存在します。味蕾を構成する味細胞で味物質を受容すると、活動電位の発生と神経伝達物質の放出が起こり、この情報が味神経を經由して中枢神経に伝わることによって味情報が知覚されます。活動電位の発生には、電位依存性 Na<sup>+</sup> チャンネル (Nav チャンネル) が関与していて、Nav チャンネルには Nav1.1 ~ Nav1.9 までの9つのサブタイプが存在します。先行研究では、茸状乳頭味蕾における Nav サブタイプが研究されていましたが、有郭乳頭味蕾における Nav チャンネルサブタイプは未解明です。本研究では、逆転写ポリメラーゼ連鎖反応 (RT-PCR) を用いて、有郭乳頭味蕾における Nav チャンネルサブタイプを解明することを目標としています。



## LTA型ゼオライトの種結晶添加による合成速度への影響



物質工学科 5年

大串 将也

多孔質材料の一種である「ゼオライト」と呼ばれる物質は、吸着剤・触媒・脱水剤など、分野を問わず多岐にわたり私たちの生活の中で利用されています。天然鉱物として自然界に存在するゼオライトですが、人工的に合成することも可能で、多種多様な結晶構造のゼオライトが人工的に合成されています。

私の研究では合成の際に、起点となる「種結晶」を添加することで、結晶化速度がどのように変化するかを比較・検討しています。種結晶が合成過程にもたらす影響を数式化して明らかにすることで、より効率的な人工ゼオライトの生産、新しい結晶構造のゼオライトの合成につながります。

研究を進めるにあたり、ご指導いただいた長田秀夫教授、ならびに化学・生物工学科教職員の皆様に心より感謝申し上げます。



## 教員研究

## 私たちはなぜ「甘い」と感じるのか—味覚生理学が挑むミクロの探究—



化学・生物工学科 助教

嘉悦 勝博

みなさんは「生理学」という学問をご存知でしょうか？高校でも習う物理学が「物の理（ことわり）」を追求するのに対し、生理学は「生きとし生けるものの理」を解き明かす学問です。ノーベル賞に「生理学・医学賞」があるように、私たちの生命活動の仕組みを探る、非常に重要でエキサイティングな分野です。体の構造を学ぶ「解剖学」と共に、人間を含む哺乳類の生命の根幹を研究します。

私は普段、食べ物の研究を行っています。食品の製造プロセスや、口内での変形・流動といった物理的な解析も行ってありますが、それと並行して情熱を注いでいるのが、哺乳類が味を感じる仕組みを紐解く「味覚生理学」です。

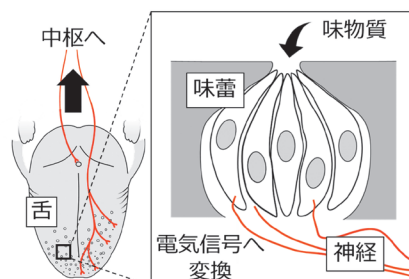
実は、私たちが毎日当たり前のように感じている「味」の世界には、まだ分かっていないことがたくさんあります。最近、私の研究グループでは、マウスの舌にある「味蕾（みらい）」の中で、甘味に反応する細胞を正確に特定し、数えるための

新しい手法を開発しました。特殊な物質を取り込ませることで、甘味を感じて活動している細胞をいわば「見える化」することに成功したのです。

一見、私たちの生活とは遠い基礎研究に思えるかもしれませんが、「なぜ甘いと感じるのか」という根本的な仕組みを知ることは、将来の豊かな食生活や健康維持、さらには生命の神秘の解明に直結しています。これからも「おいしい」の裏側にあるミクロな世界を、学生たちと共に探求していきたいと思います。

Kaetsu, K. et al. (2025). *Histochem. Cell Biol.* 163, 115.

<https://doi.org/10.1007/s00418-025-02442-w>





## 基幹教育科長より

### 基幹教育科が進める探究のサイクル



基幹教育科長 教授

森 保 仁

佐世保高専では、令和7年度の1年生からDIGI<sup>+</sup>(デジタス)の学生が加わり、新カリキュラムがスタートしました。主に高校生の年代の教育を担っている「基幹教育科」も、本校に入学した1年生が高専で学ぶために必要なスキルや自分のキャリアについて考えることを目的とした新しい科目「リベラルアーツⅠ」を開講しました。自分の強みや価値観を認識し、過去の経験を振り返り、自ら学ぶ姿勢を確立することなどに加え、プレゼンテーションの基礎や情報リテラシーなども学ぶことができたと思います。令和8年度には、更にブラッシュアップした授業を展開していく予定です。

令和8年度には、新2年生を対象とした新しい科目「リベラルアーツⅡ」と「地域課題探究」を開講します。「リベラルアーツⅡ」では、客観的な事実を尊重して統計データ等を論理的に解析する力を養うことで、探究活動の基礎を学ぶ

授業を展開する予定です。「地域課題探究」では、学生主体で見つけ出した地域の課題に対してチームで向き合い、課題解決に向けて自分たちの考えを提案する力を養う授業を実施する予定です。

これらの授業を経験した後に、3年生では「グローカルリテラシー」というゼミ形式の授業を履修します。この授業は、新カリキュラムに先がけて令和4年度から開講しています。基幹教育科の教員1名につき9～10名のゼミ生を配置し、各ゼミ内で2班に分かれ、班のメンバーが協力して、「グローバル(世界)」と「ローカル(地域)」に焦点を当てた探究活動を1年間かけて取り組みます。高校3年生の時期に、中間発表(スライド)、最終発表(ポスター)、論文作成(研究成果のまとめ)を体験するこの授業は、地域の企業の方々や他高専からも注目され、高く評価されています。

基幹教育科では、これら「リベラルアーツ科目群」により、社会と学びをつなぐ探究のサイクルを進めています。今後もさらに進化し充実した授業内容を追求していきたいと思っています。

## 授業紹介

### 保健体育



基幹教育科 講師

古瀬 由 佳

Q. どんな授業ですか？

A. 1・2年生を対象とした「保健体育」では、集団スポーツの実践を通じて、基礎的な身体能力の向上と、現代社会で求められるリーダーシップやフォロワーシップなどの「協働力」を身に着けます。前期は、バレーボールとソフトボールを行います。後期は、バスケットボールとサッカーを行います。1年次には、各競技の特性を理解し、基礎技術を習得することに重点を置きます。2年次には、習得した基礎技術を土台とし、チームとしての戦術や、流動的なゲーム展開に対応する応用力を養います。また、年間を通じて実施する「新体力テスト」の結果を分析することで、自己の身体能力を客観的に把握し、健康維持や能力向上のためのプロセスを自律的に設計する力を育みます。

Q. 工夫しているところは？

A. 本授業の大きな特徴は、単なる技術向上に留まらず、チーム内でのリーダーシップや、周囲を支えるフォロワーシップの発揮を重視しています。集団における自己の役割と責任を自覚し、他者と協働して目標に挑む経験は、将来の社会生活における大きな資糧となります。学びを深める工夫として、活動の振り返りを行い、自身の動きやチームへの貢献度を言語化して次回授業に繋げます。さらに、実技に加えて「運動と心身の健康」や「スポーツと工学」についてのレポート課題を課すことで、科学的・理論的な視点からスポーツを考察する力を養います。5年間の学びを通じ、卒業後の人生で豊かな身体活動と健全な社会生活を調和させるための、知識と理解、実践力の習得を目指しています。



## 教員研究

## グラフのマグニチュードホモロジー



基幹教育科 講師

田 蔭 優

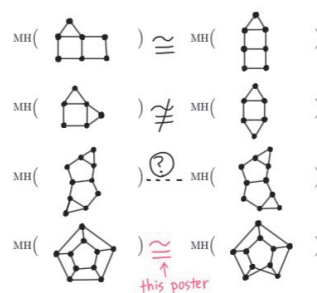
頂点と辺からなる図形をグラフといいます（関数の「グラフ」とは別のもの）。グラフの頂点から頂点に進むとき、「少なくともいくつかの辺をたどるか」を頂点間の距離と定義すると、グラフは距離空間となります。距離空間に対する不変量の1つにマグニチュードと呼ばれるものがあります（地震の「マグニチュード」とは別のもの）。さらに、マグニチュードより精密な情報をもつ不変量として、マグニチュードホモロジーがあります。私は、主にグラフのマグニチュードホモロジー（以下、MH）の研究をしています。大まかには、グラフ自体の性質（頂点数や辺の個数、サイクルの大きさや個数、直径など）とMHの構造の関係を知りたいと考えています。

最近では、グラフに対するどのような操作でMHが変わるのか（もしくは変わらないのか）に興味があります。例えば、2頂点でつながっているグラフを切り離し、片方をひねって

またくっつける操作をホイットニー・ツイスト（WT）といいます。WTでうつり合うグラフが（ある条件をみたすとき）MHは同型か」という問題は10年以上未解決です（マグニチュードは等しいことが知られています）。

数学の研究では、パソコンを使って計算やシミュレーションなどをするような分野と、主に紙とペンを使って考えていくような分野があると思いますが、私の研究は後者です。パソコンで計算してみても予想をたてたりすることもあります。基本的にはノートに図や計算を書きつつ研究を進めています。

\* We would like to know what operations on graphs would change the magnitude homology.



今年度ポスター発表をした際のポスターの一部

## 教員研究

## 「原爆文学」は何を伝えようとしているのか



基幹教育科 講師

栗 山 雄 佑

私が最近研究しているのは、原爆投下を経験した長崎県で生きてきた／いる人々の様々な様相を描いた作家、作品の研究です。ただ、それは作品を読み単純に〈反戦〉や〈非核〉を訴えることではありません。なぜならば、原爆文学は読めば読むほど、このような明確な回答から遠ざかっていくように思えるからです。

皆さんは、授業で青来有一という作家について学んだことがあると思います。私は、2006年に刊行された『爆心』という作品集を研究対象としていますが、ここには爆心地の周囲に暮らす人々の様々な欲望が生々しく描かれています。研究では、なぜ登場人物はここまで欲望が満たされない人生を歩んでいるのか、ここに原爆投下の記憶はどのように関係しているのか、を様々な先行研究や資料を援用しながら考えています。その上で、作品が試みようとしている従来の原爆に関する様々なイメージの転換とは何か、それが実社会に与え

る影響とは何か、を研究者同士の意見交換を経て、研究発表や論文で提起しています。

私が最も大事にしていることは、作品を自らが持つ問題と関連させながら読み、考えることです。原爆文学を読む中で、様々なことが自らの問題領域に重なってくることが分かってきましたし、並行して行っている沖縄文学研究も、ジェンダーに関する文学研究も、すべて〈自分事〉として考えていくなかで、文字芸術としての文学作品が従前の社会システムをいかに変えようとしているのか、が見えてきたように思います。国語の授業でも、みなさんが文章を読む前と読んだ後でどのように考え方が変わったか、を聞きたいです。AIが生成したものではない、〈生々しい声〉を今後も見聞きできることを期待しています。



（青来有一氏を招いた原爆文学研究会の様子）



## リベラルアーツⅠ



基幹教育科 准教授

大山 泰史

本年度、1年生を対象に新科目「リベラルアーツⅠ」を開講しました。本校が推進する高度情報・半導体・アントレプレナーシップの各人材育成において、その基幹となる「目標達成力」や「他者と協働する力」といった非認知能力の向上

は、変動する社会において不可欠です。

本授業では、自己分析や試験の振り返りを通じて自己理解を深め、傾聴や多様性に関するワークから他者を理解する能力を高めています。また、自己表現のワークによる情報処理スキルの習得や、教員・企業による講話を通じて自身のキャリアを多角的に考える機会も設けています。

これらの活動で培ったマインドやスキルは、次年度以降の「リベラルアーツⅡ」や「地域課題探究」、「グローバルリテラシー」における主体的な学びの土台となることが期待されています。



## グローバルリテラシー



基幹教育科 講師

栗山 雄佑

基幹教育科では、これから到来する Society 5.0 において新しい価値を生み出す人材を育成するための基礎的知識、ものごとの考え方、取り組み方、発信の仕方を学ぶ授業を全

学科に向けて開講しています。「グローバルリテラシー」では、グローバルな視点とローカルな視点を基幹教育科の各教員の専門分野を通して学び、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」「複眼的視野」「変動する社会情勢に対応する力」を育成しています。

4年目となる本年度は、佐世保市の地域課題を解決するためのプランの提案、様々な外部組織との連携を行っているゼミも増えています。今後もますます活発なゼミ活動が行われていくことを期待しています。



合同講義



ゼミ毎の活動



中間発表会



校外実習



最終発表会



論文執筆



## ■ グローカルリテラシー 印象に残ったポスター 4 選

### 地震災害後、倒壊家屋での思い出品回収ロボシステム

眞部ゼミA班

3M 大町心菜・3M 鈴山翔・3C 出口拓海

3C 南里泰成



私たちは『災害後の思い出品回収ロボシステム』について研究を行いました。人間の侵入が困難な地震倒壊家屋で 100g 程度のものを回収すること目的としています。実機を製作して「フタバ」と命名しました。このシステムの使用プロセスは、避難所から空中ドローンで家屋周辺の安全に着陸できる場所からカメラで状況を把握しつつ、通信用のサポートロボ、「フタバ」を目的地まで被災者ご自身で操縦していただくことを想定しております。既製品を使用しているため誰でも操縦できます。

GLの活動として、カメラでの無線制御やアームの製作等を行いました。また、(株)AeroFlexに実際の状況を想定した空中ドローンでの運搬、走行確認等の代理実験を行っていただきました。

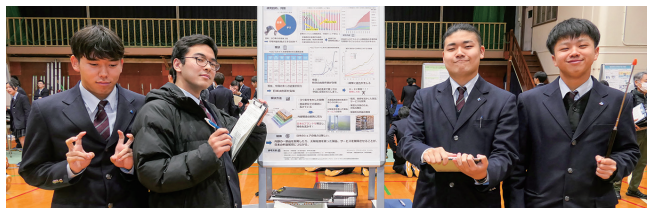
最終発表に向けて行った観覧者に見やすく、分かりやすいポスターの作成や決まった時間内の中で発表練習を、今後の卒業研究等で生かしていきたいです。

### 世界シェアのその先へ!『ペロブスカイト太陽電池の未来』

森ゼミA班

3M 村島優太・3E 堀江瑛太・3E 前川大舞

3E 前川優大



私たち森ゼミA班は、次世代の太陽電池として注目されているペロブスカイト太陽電池について調査研究を行いました。この太陽電池は日本人研究者が発明したのですが、従来のシリコン型太陽電池と同様に中国がその世界シェアを占めつつあります。日本の強みは、この太陽電池の原材料であるヨウ素の生産量が世界第2位であることと、高い技術力を持つということです。そこで私たちは、ヨウ素を活かしたペロブスカイト太陽電池の内部構造の独自開発や、ペロブスカイト太陽電池を利用した製品やサービスを展開することにより、世界市場において日本が利益を獲得できると結論付けました。ペロブスカイト太陽電池はまだ発展途上の技術です。これから私たちの暮らしの中で、どのような形で活躍していくのか、その未来をぜひ皆さんも想像してみてください。

### 大村湾の水質浄化

カイゼミA班

3E 天野誠斗・3E 白石杏・3C 長岡悠仁

3C 山口倅奈



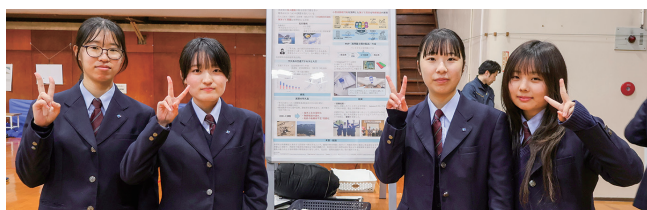
私たちは、大村湾の水質浄化について調査研究を行いました。大村湾は閉鎖性海域と呼ばれており、海水の入れ替えが少ないため、水質汚染が問題視されています。そこで今回は、海水の動きではなく、生物に着目し水質改善を目標に実験を行いました。大村湾の海水を採取し、エアレーションを入れた水槽に浄化効果が期待される生物（海藻・牡蠣・アサリ）を入れ、水質の変化を観察しました。結果はどの生物も硝酸塩・亜硝酸塩が増加しました。この結果については、それぞれ1つの水槽で行ったため排泄物による汚染であると考えました。私たちの見解として、水質を浄化する生物とその生物の排泄物を分解する“サイクル”ができればより水質浄化が期待されたと考えました。この予想から大村湾でこれらの生物をはじめとした様々な生物で構成される生態系を構築することが効果的ではないかと提起しました。

### 離島問題を自動航行船で解決

濱田ゼミA班

3S 川久保光莉・3S 久保知希・3S 橋本蒼依

3C 坂本堇



私たちは、佐世保市の宇久島を対象に、離島が抱える「海洋ごみの深刻化」と「物資輸送の制約」の二つを解決する方法を研究しました。フィールドワークでは、美しい海や自然、歴史に触れて島の魅力を肌で感じました。その一方で、海岸に漂着している大量のごみも強く印象に残り、島内の方々の話から多くの課題が分かりました。

この経験をもとに、自動航行を活用し、海洋ごみ回収と物資輸送を一体化する新たなモデルを考えました。さらに持続可能な仕組みを目指してビジネスモデルを構築し、ペットボトル回収試作機の陸上での実験を成功させました。

最終発表会では、多くの人に、世界中の離島が直面する問題や自動航行技術の可能性を知ってもらえる良い機会になりました。他班の発表からも多くの刺激を受け、これからも地域課題の解決に挑戦したいと思いました。



## 専攻科長より

## 「他分野を学ぶことの強みとは」



専攻科長代理  
情報工学系副科長 教授  
兼 田 一 幸

専攻科修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが学んだ7年間で、世界の技術は大きく変化しました。特にAI（人工知能）の進化は目覚ましく、現在のAIブームは一過性の流行ではなく、社会を大きく変える潮流になっています。私たちは今、AIと共に様々な課題を解決し新たな価値を創造する新しい時代に入りました。しかし、いかに技術が進歩しても、世の中には未だ解決すべき多くの課題が残されています。今後、皆さんは、このAI技術を活用しながら、人を幸せにするための課題解決に従事していくことになります。

そこで、皆さんに改めて伝えたいのは、AIの活用だけでは視点は広がらないということです。本校の複合工学専攻では、専門分野だけでなく、あえて他分野も学ぶカリキュラムを組んでいる理由はそこにあります。学び始めた当初は、自分の専門には関係

ない、何の役に立つのか分からないと感じた授業もあったかもしれませんが、その一見無駄に思える学びこそが、将来、点と点が結びつくように、大きな価値を生むのです。アップルの創業者スティーブ・ジョブズは、学生時代に計算機とは無縁な哲学やカリグラフィー（西洋書道）を学んでいました。当時は実用的な機器とは無関係に思われましたが、後にそれらがMacintoshの美しいフォントや人間工学に基づいたデザインに繋がり、世界を変えるイノベーションを実現する土台になりました。企業の人事担当者と話をしても、自分の専門知識に加え、他分野の知識も併せ持つ広い視点を持った人材を求める声を多く聞きます。また、実際に学生時代の専門分野とは異なる部署で、複合的な視点を武器に活躍している卒業生も大勢います。皆さんが培った広い視野は、AI時代を生き抜く大きな力になるはずです。

これから社会に出て、学びを止めないでください。古くから「芸は身を助く」と言われますが、皆さんが本校で身につけた知識や技術は、誰にも奪われることのない一生の財産であり、今後の皆さんを支えてくれる確かな力となります。この財産と本校での多様な経験があれば、どのような環境でも存分に活躍できるはずです。

学んだことを誇りに、自信を持って未来を切り開いてください。皆さんのこれからのご活躍を、心より願っています。

## 授業紹介

## 分析化学特論



化学・生物工学科 准教授  
田 中 泰 彦

Q：どんな教科ですか？

A：『分析化学特論』。なんだか強そうな名前の教科ですよね？「特論」は英語で言うと「アドバンスド（Advanced）～」。ゲームに例えて言うと1回クリアした後に現れる「上級ステージ」や「高難度モード」のようなものです。つまり、専攻科の分析化学特論は、本科で学習した「分析化学」の内容をさらに掘り下げ、理解を深める教科です。

Q：分析化学で何を学ぶの？

A：分析化学では、大きく分けて2つの分析を学びます。まずひとつは、「何が入っているか？」を当てる分析です。これを「定性分析」といいます。もうひとつは、「どれくらい入っているのか？」をはかる分析です。こちらは「定量分析」といいます。分析化学では、この両方の分

析を学びます。

Q：「何が」「どれくらい」を知ることは大切な？

A：はい、とても大切です。世の中の多くのものは、「少しなら体にいいけれど、多すぎると毒になる」という性質を持っています。例えば、私たちが飲む薬も、「正しい成分」が「正しい量」入っているから病気が治ります。量が間違っていたら毒になってしまうこともあります。

Q：分析化学は、どんなところで役立っているの？

A：実は、私たちの生活のあらゆるところで活躍しています。例えば「川の水が汚れていないか調べる環境調査」や、「食品パッケージに書かれている成分表示の確認」、さらには「事件現場に残された証拠の鑑定」まで。私たちが安心して暮らせる安全な社会の裏側には、必ずと言っていいほど分析化学の技術が使われています。結論、分析化学は役に立つよ！



## 卒業生から

## 修了を迎えて



専攻科 2年 機械工學系

千住 哲太郎

専攻科での二年間は、本科以上に「自律する力」が求められました。学科の人数が少なく、自分一人で判断し行動する場面が増えたことで、自己管理の重要性を痛感した日々でした。私は一度入試に失敗し、人より一年長く高専に在籍しました。同級生が先に卒業していく姿に寂しさを感じたこともありましたが、今ではその時間をポジティブにとらえています。一年間長くいたからこそ、より多くの友人と出会い、かわいい後輩たちとも親しくなれました。この場所で過ごした時間は、自分にとってかけがえのない財産です。

後輩の皆さんへのアドバイスは、どんな状況でも前向きに捉え、今この瞬間を大切に過ごしてほしいということです。たとえ遠回りに思える道でも、とらえ方次第で自分を成長させる糧になります。限られた高専生活を、ぜひ楽しみ尽くしてください。

## 修了を迎えて



専攻科 2年 電気電子工學系

石元 沙知

専攻科に入学してから2年間は、本科の頃よりも多くのことに挑戦することができ、有意義な時間を過ごすことができました。

特別研究では主体的に取り組む機会も増え、たくさんの失敗も経験しました。そして、トライ&エラーの蓄積の大切さを実感しました。問題が起きたときには、本質を見極めたり、いろいろな角度から解決策を考えたりする姿勢を、これからも大切にしていきたいです。また、ビジコンや学会など人前で発表を通じて、苦手な分野でも経験を重ねることで成長できました。

最後になりましたが、指導教員である猪原先生、実験を行うにあたりご協力頂いた日比野先生、竹市先生をはじめ、ご指導を賜りました先生方に心より感謝申し上げます。そして後輩の皆さんには、失敗を恐れずまずは一歩踏み出すこと、そして小さな挑戦を積み重ねることの大切さを伝えたいです。

## 専攻科生活を振り返って



専攻科 2年 情報工學系

山領 悠太

私は専攻科での2年間で、情報セキュリティに関わる課外活動に尽力してきました。中でも全国規模で行われているICTカンファレンスと呼ばれる活動では、ファシリテーターとして後輩への指導も含めて、実際に東京サミットに参加することで、より自分の視野を広げることができました。サイバーセキュリティボランティアとして小学校に講演に行くこともでき、貴重な経験ができた2年間でした。

本科から含めると7年間という高専生活でしたが、本当にあっという間でした。この7年を高専で過ごせたことは、自分の人生の中でこれ以上ない財産となるでしょう。これからも高専で学ぶ後輩たちには、まず楽しむことを第一とし、友人を大切に、些細なことでも自分からチャレンジしてほしいです。それは間違いなく、あなたの成長に繋がります。

## 修了を迎えて



専攻科 2年 化学・生物工學系

植西 菜々子

私が専攻科に入学してから、早2年が経とうとしています。専攻科での学びは、振り返るとどれも新鮮で刺激的でした。専門外分野の授業や実験、他学科の学生と力を合わせてロボットを完成させた総合創造演習、中国の厦門理工学院との交換留学など……専門知識をさらに深めるだけでなく、視野を大きく広げる経験に恵まれ、非常に充実した2年間であったと感じています。

私にとって高専は、常に新しい出会いと挑戦のきっかけを与えてくれる場所でした。後輩のみなさんも、高専生である今だからこそできることに、ぜひ臆せず飛び込んでみてください。

最後になりますが、研究を進めるにあたり熱心にご指導いただいた森山先生をはじめ、計7年間の高専生活を通して支えてくださった先生方、そして共に歩んできた友人や家族に、心より感謝申し上げます。



## 特別研究

### 噴流発生装置のノズル形状による流動制御に関する研究

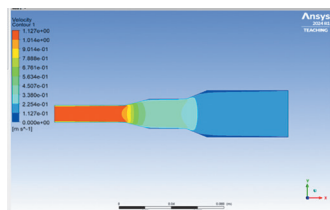


専攻科 2年 機械工学系

井手 公子

ダムや湖などの閉鎖的な水域では、水が停滞することで水中の溶存酸素量が減少し、生物の生息環境が悪化してしまいます。そこで本研究では、水中の溶存酸素量を効果的に上昇させることを目的とした噴流発生装置の開発と性能調査を行っています。噴流を発生させるノズルは、その形状により流れの状態が変化し、装置全体の性能に影響を及ぼします。専攻科の2年間では、ノズル内部の流れの状態を把握するため、数値解析によるシミュレーションを行いました。ノズル形状による流動制御が可能になれば、装置のさらなる性能向上につながると考えています。

特別研究を通して、専門的な知識だけでなく、社会問題に関心を持ち、課題解決に向けて主体的に考え行動する力をつけることができました。これからは、特別研究で培ったこれらの能力を生かし、社会に貢献できる技術者を目指したいと思います。



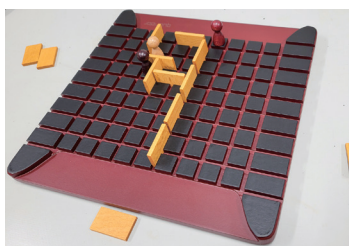
### コリドールにおいて敵対意識の回避を行うプレイヤーの開発



専攻科 2年 情報工学系

樋渡 龍

現在、数多くのボードゲームで人間を凌駕する強さのAIが存在しています。このような強いAIは、一般的に「相手も勝利のために合理的な選択をする」という前提のもと計算を行います。しかし、人間が多人数用ボードゲームを実際に遊ぶ場合、特定の相手への執拗な反撃や強いプレイヤーの袋叩きといった、感情由来で非合理的な行動を取ることがあります。このような行動は、合理的な判断をする一般的な手法では予測が困難です。私は、こうした人間の心理的な動きを考慮し、他者からの敵対的な行動を回避する探索手法の開発を目的としています。依然として課題は多く残っていますが、将来的には、心理的な駆け引きを含んだ人間味のある対戦体験の提供に少しでもつながればと考えています。



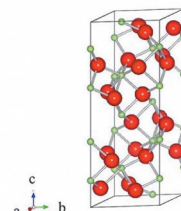
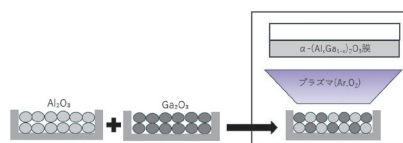
### 「粉体ターゲットを用いたスパッタリング法によるコランダム構造酸化物の電気特性制御」



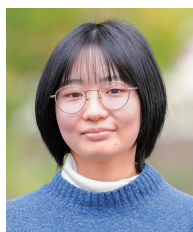
専攻科 2年 電気電子工学系

津上 聖矢

現代社会におけるエネルギー需要の増大と環境問題への対応は喫緊の課題であり、省エネルギー社会の実現に貢献するため、次世代のパワーデバイス材料として期待される酸化物半導体の研究に取り組んでいます。具体的には、コランダム構造と呼ばれる結晶構造を特徴とする酸化インジウム、酸化ガリウム、酸化アルミニウムの混ぜ合わせる比率を変えることで、その電気的な特性を精密に制御できる可能性を探っています。本研究では、スパッタリング成膜の原料に粉末状の材料を用いる新しい方法を用いて、それぞれの材料の割合を細かく調整し、その膜の電気的な特性が、材料の混合比によってどのように変化するかを詳しく調べました。この研究を通して、材料の組み合わせと特性の関係性を深く理解するとともに、自ら考え主体的に学ぶ姿勢を身につけることができました。



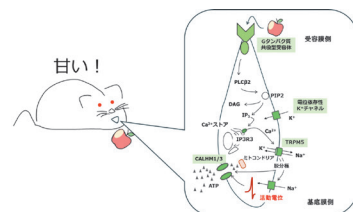
### マウス茸状乳頭味蕾の味応答細胞数の定量的評価法を応用した味応答メカニズムに関する研究



専攻科 2年 化学・生物工学系

松尾 亜弥

「果物を食べると甘いと感じる。」これは当たり前のように感じられるかもしれませんが、舌表面の小さな細胞の中の小さなタンパク質が働いてくれるおかげで実現しています。そもそも甘味は、体に必要なエネルギー源である「糖」を見分けるための生存に不可欠な感覚です。舌の細胞がこの信号を受け取ると、情報伝達のパトリレーが始まり、最終的に脳に「甘さ」が伝えられます。私はこの情報伝達において、鍵を握る特定のタンパク質の役割を研究しました。実験では、電気信号を出すタンパク質の働きを抑えると、情報を伝達する物質が放出されにくくなることがわかりました。実験や画像解析には慣れない操作や苦勞もありましたが全てが今後の自分につながる良い経験になったと思います。これからも高専で得られた経験を活かして研究を続けていきます。



## 学 生 発 表

## 「人工触媒を用いた酸化還元応答型ハイドロゲルの形成と基礎物性評価」



専攻科 2年 化学・生物工学系

芝 真朱咲

私は2025年3月に行われた「第27回化学工学会学生発表会」にて「人工触媒を用いた高分子水溶液のゲル形成」というテーマで発表を行い、優秀賞を受賞いたしました。また、2025年10月に行われた「化学工学会九州支部大会2025」にて「人工触媒を用いた酸化還元応答型ハイドロゲルの形成と基礎物性評価」[森山幸祐 1.1]というテーマで発表を行い、学生発表賞を受賞いたしました。ご指導賜りました先生方に心より感謝申し上げます。下記は「化学工学会九州支部大会2025」における発表内容です。

## 1 研究概要

高分子同士の「架橋」と呼ばれる橋かけによって三次元網目構造を形成し、それが水によって膨潤したゼリーのような材料を「ハイドロゲル」といいます。ハイドロゲルは高含水性や柔軟性を有することから、医療・バイオプロセス分野において細胞を包括し生体へ移植するための材料や薬物を体内の標的部位へ適切に届けるための運搬媒体など幅広い応用が期待されています。中でも、外部の刺激に応答して物性が変化する刺激応答型ゲルは、生態環境に適応可能な先端材料として注目を集めています。その一つである酸化還元応答型ゲルは、ジスルフィド結合を架橋点とすることで可逆的なゲル-ゾル転移を可能とし、生分解性（必要な時に容易に溶解できる）を有する点において有用とされています。しかし、従来の合成触媒や酸化剤を用いたゲル化法では、酸化剤自体の毒性や反応条件の過酷さにより、生理活性分子や細胞に対する安全性が懸念されています。

この課題を克服するため、本研究では生体由来分子を活用した温和なゲル形成法の確立を目指しました。我々はこれまでにタンパク質とポルフィリンが形成する複合体が、温和な条件においてチオール基を酸化するチオールオキシダーゼ活性を示すことを見出しています。この複合体は生体由来分子から構成されるため、高い生体適合性を有するとともに新たな架橋触媒として利用可能であることが期待できます。そこで本研究では、チオール基を導入した高分子を基材とし、本複合体の触媒作用によりジスルフィド結合を架橋点とする酸化還元応答型ハイドロゲルの形成を試みました (Fig.1)。さらに、得られたゲルの形成挙動および物性について評価を行いました。

## 2 研究成果

高分子水溶液にタンパク質-ポルフィリン複合体を触媒として添加することで、ゲルの形成が確認されました (Fig.2 (a), (b))。ゲル化に要する時間は数秒から数分程度であったことから、本手法は高い操作性を有するゲル化作製法になることが期待できます。次に、作製したゲルに還元性を示す水溶液を添加することで、温和な条件下で溶解させることも可能であることが示されました (Fig.2 (c), (d))。さらに、高分子濃度や触媒濃度、触媒に用いるタンパク質の種類やポルフィリンの導入量を調整することでゲルの形成時間や性質（ゲルの強度、膨潤度、溶解速度等）が制御できることも明らかとなりました。

今後は、得られたゲルの細胞培養基材としての有用性を評価することで、本触媒の医療・バイオプロセス分野における応用可能性について議論していきたいと考えています。

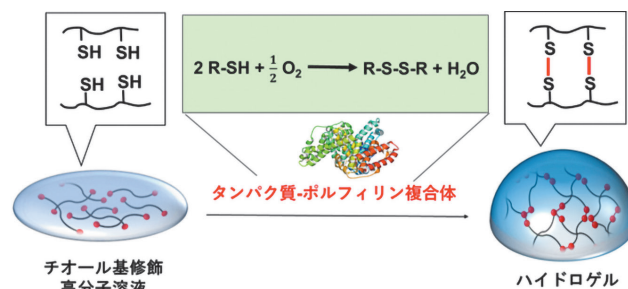


Fig.1 本研究で提案するゲル作製法

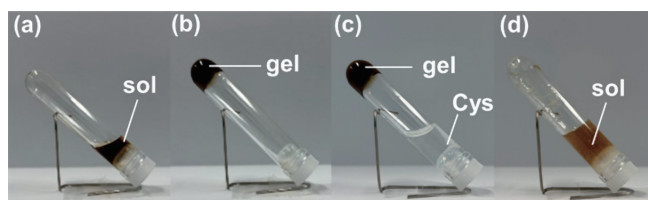


Fig.2 (a)高分子および触媒混合直後 (b)30分後:ゲル化 (c)還元環境下:Cys添加直後 (d)2時間後:溶解



## 令和7年度卒業生・修了生の進路状況

令和7年12月末の各学科および専攻科の進路状況（就職）と編入学、大学院進学を以下の図表に示します。本科5年生160名は、ほとんどが進路を決定し、就職102名、進学50名（専攻科19名、大学編入学31名）、その他9名（就職未定6名、進学未定3名）です。専攻科2年生25名は、就職14名、大学院進学10名、その他1名（進学未定1名）です。

厚生労働省の公表（R7.10.1現在）によりますと、今春の卒業予定者の就職内定率は、大学（学部）は73.4%（前年同期比0.5ポイント上昇）、高等専門学校は92.0%（前年同期比0.6ポイント上昇）になっています。

なお、本校の内定率は94.5%です。

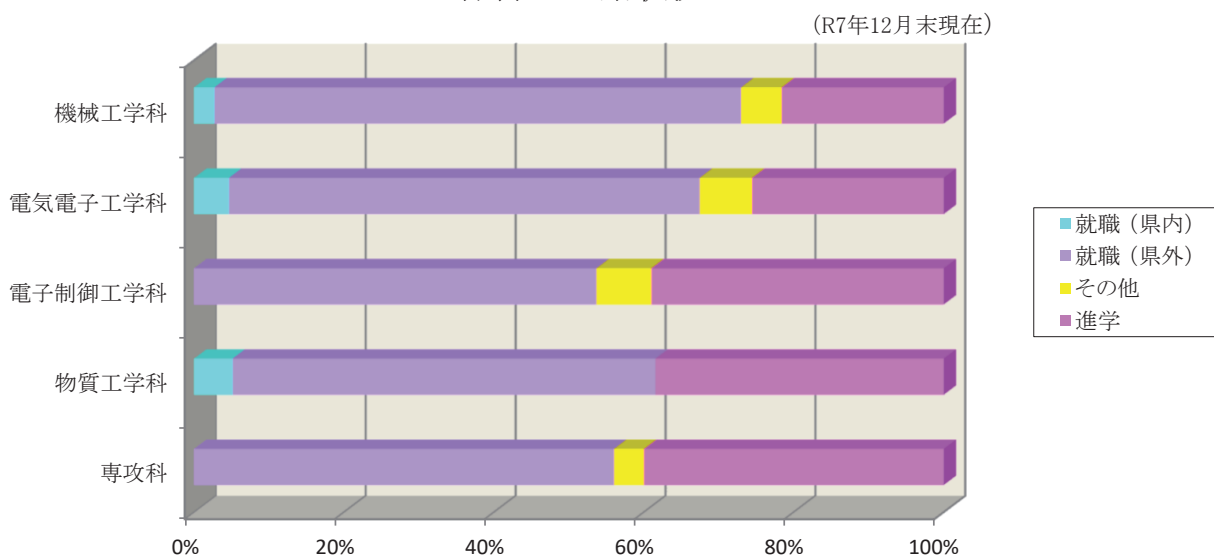
また、本科における今年度の求人企業数は、学科により異なりますが、1,421～1,828社で、求人倍率は、60～82倍でした。専攻科の求人企業数は、

1,607社で、求人倍率は115倍でした。

このように、今年度も本校は、大卒求人倍率1.66倍（リクルートワークス研究所調査：R7.4.24発表）に比較して非常に高い求人倍率を維持しています。進学については、専攻科および国立大学・大学院に進学します。

※ 求人倍率 = 求人企業数 / 内定者数

## 各科の進路状況



## 〈編入学一覧〉

(本科)

(順不同)

| 大学等名       | 学科       | 学部              | 学科等 | 機械工学科 | 電気電子工学科 | 電子制御工学科 | 物質工学科 | 合計 |
|------------|----------|-----------------|-----|-------|---------|---------|-------|----|
| 本校専攻科      |          |                 |     | 5     | 4       | 6       | 4     | 19 |
| 宇都宮大学      | 工学部      | 基盤工学科           |     |       |         | 1       |       | 1  |
| 東京科学大学     | 生命理学院    | 生命理工学系          |     |       |         |         | 1     | 1  |
| 東京国際科専門職大学 | 工科学部     | デジタルエンタテインメント学科 |     |       |         | 1       |       | 1  |
| 早稲田大学      | 創造理工学部   | 総合機械工学科         | 1   |       |         |         |       | 1  |
| 千葉大学       | 工学部      | 総合工学科           |     |       |         | 1       |       | 1  |
| 横浜国立大学     | 理工学部     | 数物・電子情報系学科      |     | 1     |         |         |       | 1  |
| 豊橋技術科学大学   | 工学部      | 機械工学系           | 1   |       |         |         |       | 1  |
|            |          | 電気・電子情報工学系      |     |       | 1       |         |       | 1  |
|            |          | 応用化学・生命工学課程     |     |       |         |         | 4     | 4  |
| 京都工芸繊維大学   | 工芸科学部    | 設計工学域           | 1   |       |         |         |       | 1  |
| 大阪大学       | 基礎工学部    | システム科学科         |     |       |         | 1       |       | 1  |
| 関西大学       | システム理工学部 | 電気電子情報工学科       |     |       |         | 1       |       | 1  |
| 愛知教育大学     | 教育学部     | 学校教員養成課程        |     |       |         |         | 1     | 1  |
| 金沢大学       | 理工学域     | 電子情報通信系類        |     | 1     |         |         |       | 1  |
| 長岡技術科学大学   | 工学部      | 電気電子情報工学分野      |     | 1     |         |         |       | 1  |
|            |          | 物質生物工学分野        |     |       |         |         | 1     | 1  |
| 徳島大学       | 理工学部     | 応用化学システムコース     |     |       |         |         | 1     | 1  |
| 広島大学       | 情報科学部    | 情報化学科           |     |       |         | 1       |       | 1  |
|            | 工学部      | 第3類化学工学コース      |     |       |         |         | 1     | 1  |
| 岡山大学       | 理学部      | 化学科             |     |       |         |         | 1     | 1  |

|        |       |         |   |    |    |    |    |
|--------|-------|---------|---|----|----|----|----|
| 九州大学   | 工学部   | 電気電子工学科 |   | 1  |    |    | 1  |
|        |       | 電気情報工学科 |   |    | 1  |    | 1  |
|        | 経済学部  | 応用化学科   |   |    |    | 1  | 1  |
|        |       | 経済工学科   |   |    | 1  |    | 1  |
| 九州工業大学 | 情報工学部 | 知能情報工学科 |   |    | 1  |    | 1  |
|        |       | 物理情報工学科 |   | 1  |    |    | 1  |
| 熊本大学   | 工学部   | 情報電気工学科 |   |    | 1  |    | 1  |
| 鹿児島大学  | 工学部   | 先進工学科   |   | 1  |    |    | 1  |
| 合      |       | 計       | 8 | 11 | 16 | 15 | 50 |

(専攻科)

(順不同)

| 大学等名          | 学科 | 研究科等      | 機械工学系 | 電気電子工学系 | 情報工学系 | 化学・生物工学系 | 合計 |
|---------------|----|-----------|-------|---------|-------|----------|----|
| 奈良先端科学技術大学院大学 |    | 先端科学技術研究科 | 1     |         | 1     | 3        | 5  |
| 広島大学大学院       |    | 統合生命科学研究科 |       |         |       | 1        | 1  |
| 熊本大学大学院       |    | 自然科学教育部   |       | 1       |       |          | 1  |
| 九州工業大学大学院     |    | 生命体工学研究科  |       |         |       | 1        | 1  |
| 九州大学大学院       |    | 総合理工学府    |       |         | 2     |          | 2  |
| 合             |    | 計         | 1     | 1       | 3     | 5        | 10 |

## 〈就職企業一覧〉

(本科)

| 会社名                      | 学科 | 機械工学科 | 電気電子工学科 | 電子制御工学科 | 物質工学科 | 会社名                                           | 学科 | 機械工学科 | 電気電子工学科 | 電子制御工学科 | 物質工学科 | 会社名                  | 学科 | 機械工学科 | 電気電子工学科 | 電子制御工学科 | 物質工学科 |
|--------------------------|----|-------|---------|---------|-------|-----------------------------------------------|----|-------|---------|---------|-------|----------------------|----|-------|---------|---------|-------|
| 川崎重工業(株)                 |    | 1     |         |         |       | 東京電力ホールディングス(株)                               |    |       | 1       |         |       | 富士フイルムビジネスイノベーション(株) |    |       |         |         | 1     |
| (株)安川電機                  |    | 1     |         |         |       | 三菱電機(株)電子通信システム製作所                            |    |       | 1       |         |       | 東京エレクトロン(株)          |    |       |         |         | 1     |
| 神鋼テクノ(株)                 |    | 1     |         |         |       | JALエンジニアリング(株)                                |    |       | 1       |         |       | (株)F I X E R         |    |       |         |         | 1     |
| (株)佐賀鉄工所                 |    | 1     |         |         |       | アマゾンジャパン合同会社                                  |    |       | 3       |         |       | (株)リベル・エンタテイメント      |    |       |         |         | 1     |
| (株)ホーセイ                  |    | 1     |         |         |       | ファナック(株)                                      |    |       | 1       |         |       | インフォコムテクノロジーズ(株)     |    |       |         |         | 1     |
| 旭化成(株)                   |    | 1     |         | 2       | 1     | 中部電力(株)                                       |    |       | 2       |         |       | リコーITソリューションズ(株)     |    |       |         |         | 1     |
| 出光興産(株)                  |    | 1     |         |         |       | 日本精工九州(株)                                     |    |       | 1       |         |       | NECネットエスアイ(株)        |    |       |         |         | 1     |
| 丸山電機(株)                  |    | 1     |         |         |       | (株)NTTデータグループ                                 |    |       | 1       |         |       | (株)メンバーズ             |    |       |         |         | 1     |
| 三菱重工業(株)総合研究所            |    | 2     |         |         |       | アズビル(株)                                       |    |       | 3       |         |       | (株)クレスコ              |    |       |         |         | 1     |
| 三菱重工業(株)製造研究部            |    | 1     |         |         |       | オムロンフィールドエンジニアリング(株)                          |    |       | 1       |         |       | (株)アピスト              |    |       |         |         | 1     |
| ファナック(株)                 |    | 1     |         |         |       | 東京ガス(株)                                       |    |       | 1       |         |       | トーテックアメニティ(株)        |    |       |         |         | 1     |
| 三菱電機ビルソリューションズ(株)        |    | 1     |         |         |       | (株)日立ハイテク                                     |    |       | 1       |         |       | アドバンスドプランニング(株)      |    |       |         |         | 1     |
| 花王(株)                    |    | 1     |         |         |       | ANAグループ整備部門e.TEAM ANA                         |    |       | 1       |         |       | 三菱電機エンジニアリング(株)      |    |       |         |         | 1     |
| 東レ(株)                    |    | 1     |         |         | 2     | パナソニックEWエンジニアリング(株)                           |    |       | 1       |         |       | (株)微研テクノス            |    |       |         |         | 1     |
| (株)クレオ                   |    | 1     |         |         |       | 三井不動産(株)                                      |    |       | 1       |         |       | (株)日本触媒              |    |       |         |         | 1     |
| マキノジェイ(株)                |    | 1     |         |         |       | (株)九州テン                                       |    |       | 1       |         |       | 第一三共ケミカルファーマ(株)      |    |       |         |         | 2     |
| 千代田エクスワンエンジニアリング(株)      |    | 1     |         |         | 1     | 社会医療法人財団白十字会佐世保中央病院                           |    |       | 1       |         |       | サントリーホールディングス(株)     |    |       |         |         | 2     |
| 日本製鉄(株)                  |    | 1     |         |         |       | 東芝デバイス&ストレージ(株)                               |    |       | 1       |         |       | (株)L I X I L         |    |       |         |         | 1     |
| ケイエスエイツール(株)             |    | 1     |         |         |       | 三菱電機(株)名古屋製作所                                 |    |       | 1       |         |       | (株)東洋新薬              |    |       |         |         | 1     |
| ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株) |    | 1     | 1       |         |       | 三菱重工業(株)                                      |    |       | 1       |         | 2     | エコー電子工業(株)           |    |       |         |         | 1     |
| 島津プレジジョンテクノロジー(株)        |    | 1     |         |         |       | Japan Advanced Semiconductor Manufacturing(株) |    |       | 1       |         |       | ダイキン工業(株)            |    |       |         |         | 1     |
| 中興化成工業(株)                |    | 1     |         |         |       | アステック(株)                                      |    |       |         | 1       |       | KMバイオロジクス(株)         |    |       |         |         | 1     |
| 東京製鐵(株)                  |    | 1     |         |         |       | (株)C & G システムズ                                |    |       |         | 1       |       | MHIソリューションテクノロジー(株)  |    |       |         |         | 1     |
| D M G 森精機(株)             |    | 1     |         |         |       | (株)モリタ製作所                                     |    |       |         | 1       |       | 中外製薬工業(株)            |    |       |         |         | 1     |
| (株)西島製作所                 |    | 1     |         |         |       | 日信電子サービス(株)                                   |    |       |         | 1       |       | 京セラ(株)               |    |       |         |         | 3     |
| ムラテックCCS(株)              |    | 1     |         |         |       | (株)タマディック                                     |    |       |         | 1       |       | (株)エムズサイエンス          |    |       |         |         | 1     |
| 西日本高速道路エンジニアリング九州(株)     |    |       | 1       |         |       | メタウォーター(株)                                    |    |       |         | 1       |       | 日鉄環境エネルギーサービス(株)     |    |       |         |         | 1     |
| 富士電機(株)                  |    |       | 1       |         |       | (株)ハイマックス                                     |    |       |         | 1       |       | 合 計                  | 27 | 29    | 22      | 24      |       |

(専攻科)

| 会社名          | 学科 | 機械工学科 | 電気電子工学科 | 情報工学科 | 化学・生物工学科 | 会社名          | 学科 | 機械工学科 | 電気電子工学科 | 情報工学科 | 化学・生物工学科 | 会社名               | 学科 | 機械工学科 | 電気電子工学科 | 情報工学科 | 化学・生物工学科 |
|--------------|----|-------|---------|-------|----------|--------------|----|-------|---------|-------|----------|-------------------|----|-------|---------|-------|----------|
| (株)デイスコ      |    |       | 1       |       |          | 日本精工九州(株)    |    | 1     |         |       |          | N I T T O K U (株) |    |       |         |       | 1        |
| D M G 森精機(株) |    | 1     |         |       |          | (株)名村造船所     |    |       | 1       |       |          | (株)Q T n e t      |    |       |         |       | 1        |
| 沢井製薬(株)      |    |       |         |       | 1        | (株)M J C     |    |       |         | 1     |          |                   |    |       |         |       |          |
| (株)F I X E R |    |       |         | 1     |          | (株)リガク       |    | 1     |         |       |          |                   |    |       |         |       |          |
| NECネットエスア(株) |    |       |         | 1     |          | (株)OKIソフトウェア |    |       |         | 1     |          |                   |    |       |         |       |          |
| 東芝ITサービス(株)  |    |       |         | 1     |          | (株)安川電機      |    |       |         | 1     |          | 合 計               | 3  | 2     | 8       | 1     |          |



## 学生主事より

### 常足無限



副校長（学生主事）  
基幹教育科 教授

堀 江 潔

令和7年度も、学生会役員を中心とした学生の皆さんのご尽力、多くの教職員の方々のご協力のもと、学生会主催の学校行事を無事に終えることができました。関係の皆さまには深く感謝いたします。

5月の競技大会は学生会体育局の呼びかけで熱中症や怪我を少なく抑えることができ、12月の競技大会は昼からの降雨にも臨機応変に対応し、大きな混乱なく終えることができました。10月の体育祭でも準備時の天候の移り変わりに苦慮しつつも、適宜連絡を取り合いながら体育局中心に無事に終えることができました。11月の文化祭は文化局を中心に事前準備に力を入れ、「AIには作れない青さがある」をテーマに様々な出展で来場者を楽しませてくれました。

このほか学生会役員の活動としては、1年生オリエンテー

ションでの1年生への校歌・学生歌指導(4月)、学生会決算報告と予算組み(5月)、いじめ防止標語募集・優秀作品発表(6月)、七夕イベント(7月)、高専大会選手壮行会(7月、11月)、学生会会則・準則の改定(10月)などがあります。特にいじめ防止標語募集では総務局の工夫もあってこれまでの数十倍の標語が各クラスから集まり、活動の盛り上がりが見られました。10月、会長・副会長選挙が行われましたが、それぞれ3名ずつ立候補者があり、2年生の会長立候補や熱い演説・応援演説で盛り上がりました。これも学生会活動の活性化の一つの成果と言えます。

とはいえ、改善点はまだまだあります。令和8年は午(うま)年。「常足無限」。常足(なみあし=馬の歩法で最も遅い速度)は最も基本的で、かつ最も疲れにくいといわれます。この基本を続けることで無限の可能性が開けます。学生会役員の活動も、皆さんの日々の活動も「常足無限」。日々の努力こそ、最大限の改善、成功、未来につながっていきます。この言葉を胸に、次の一年間も日々工夫と議論を重ねながら、より実りある活動につなげていきましょう！

## 学生会長より



前期学生会長 電気電子工学科 5年  
甫 木 愛 翔

学生会長を務めました。甫木愛翔です。今年一年、学生会長として感じたのは、佐世保高専が本当に良い学校だということです。行事準備で手を貸してくれた人、忙しい中で時間を割いてくれた人、空気を和ませてくれた人。本当に多くの協力に支えられて、ようやく一年を終えることができました。本当にこの学校みんなが大好きになりました。そして嬉しいことがもう一つ。次の学生会には応募が驚くほど多く、学生会がたくさんの人に入りたいと思われる事です。特に次の会長である前田慶次くんは、人を巻き込み、空気を明るくし、気づけば周りに人がいるような、素晴らしい才能を持っている人間です。男として尊敬してます。来年はもっと面白く、もっと熱い学生会になるはずです。この場を借りて、関わってくれた全ての皆さんに心から感謝します。



後期学生会長 機械工学科 4年  
前 田 慶 次

こんにちは。1年間学生会長を務めます、4年機械工学科の前田慶次です。歴代の素晴らしい学生会長の姿を見てきた中で、その重責を受け継ぐことに身の引き締まる思いがあります。

私が任期中に成し遂げたい目標の一つに、佐世保高専のグッズを作成・販売することがあります。困難も多いと思いますが、頼もしい学生会メンバーと力を合わせ、実現に向けて挑戦していきます。また、自らが新しいことに挑戦する姿を通して、学生会だけでなく佐世保高専全体が前向きに新しい取り組みを行う雰囲気を築きたいと考えています。今年度は約100名の応募があり、学生会には精鋭が集まりました。皆さんの学校生活がより充実したものとなるよう尽力します。

1年間という短い任期ではありますが、全力で取り組みますので、ご協力をよろしくお願いします。

## 競技大会（前期）



前期体育局長 機械工学科 5年

臼井 勇 惺

学生会体育局長を務めました5年機械工学科の臼井です。

佐世保高専では、1年に2回「競技大会」を学生が主体となって開催しています。

競技種目は前期と後期で異なり、前期ではソフトボール、バレーボール、硬式テニス、卓球、ドッジビー、モルック、ジェンガの7つの種目でトーナメント形式で競い合います。

王道の種目に加え、ドッチビーやモルック、ジェンガがあり運動の得意不得意に関係なく、誰もが主役となれる多彩な種目構成が魅力となっています。

トーナメントは下級生と上級生で分かれており、各クラスがチーム一丸となって種目優勝、総合優勝を目指します。

この大会の目的は、競技を通じてクラスの団結力を高めるだけでなく、学科や学年の枠を越えた新たな交流を生み出すことです。

競技大会が学生全員の最高の思い出になっていれば嬉しいです。



## 競技大会（後期）



前期副体育局長 電気電子工学科 4年

佐藤 好 未

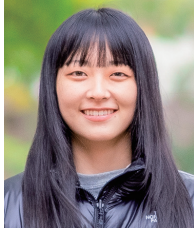
こんにちは。体育局副局長を務めました、4年電気電子工学科の佐藤好未です。令和7年度後期競技大会では、バ

スケ、サッカー、ドッジボール、バドミントン、卓球、モルック、ジェンガを実施しました。体を動かす競技だけでなく頭を使う競技も取り入れることで、全員が楽しむことができるように工夫しています。本科生、専攻科生、教職員全員がチーム一丸となって戦い、今大会では、高専生活最後の競技大会となった5年電気電子工学科が上級生総合優勝を勝ち取りました。午後から雨天時日程に変更になるといったトラブルもありましたが、臨機応変に対応し、無事に競技大会を終えることができました。参加者が競技大会を通して交流を深めている姿を見ることができ、とても嬉しかったです。今後も体育局長一同、一丸となって尽力いたします。来年度も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。





## 体育祭



前期体育祭実行委員長 物質工学科 5年  
**酒 井 杏 梨**

こんにちは。体育祭実行委員長の酒井杏梨です。今年度の体育祭は、準備段階からさまざまな課題がありましたが、実行委員をはじめ、多くの生徒の協力により、無事に開催することができました。当日は天候にも恵まれ、生徒一人ひとりが全力で競技に取り組む姿がとても印象に残っています。また今年度は、誰もが参加しやすく、楽しめる体育祭を目指し、新しい競技に挑戦し、仲間と意見を出し合い、支え合いながら作り上げた体育祭は、私にとっても貴重で大きな経験となりました。これまで活動を支えてくださった学生の皆さん、先生方、そして保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。来年度以降の体育祭をはじめとした学生行事が、さらに充実したものとなることを願うとともに、今後も皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



前期体育祭副実行委員長 電気電子工学科 5年  
**指 方 夕 貴**

こんにちは。元体育祭副実行委員長の指方夕貴です。今年度は前日に雨が降る予報がありましたが、体育館でリハーサルを行うなどの工夫を重ねた結果、当日は天候にも恵まれ、競技をスムーズに進行することができました。

また今年度は新競技として「障害物競争」を実施し、運動が苦手な生徒でも活躍できる機会を設けました。この競技は、体育局だけでなく、多くの実行委員の皆さんの協力によって実現することができました。

来年度は、全校生徒がより一層楽しめる競技内容や、保護者の方々にも見ごたえのある体育祭を開催できるよう、努力していきたいと考えています。

最後になりますが、体育祭の開催にあたりご協力いただいた教職員の皆様、地域の皆様、そして保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

来年度も、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。





## 文化祭



前期文化局長 電気電子工学科 5年  
吉村 陽翔

文化局長を務めました、5年電気電子工学科の吉村陽翔です。昨年の11月に開催された第38回文化祭では、「AIには作れない青さがある」のテーマのもと、実行委員や部活動、有志の学生による高専らしさを生かした企画や出し物が行われました。今年度からの新たな試みとなった4学科合同企画では、学生たちが学科の垣根を超えて知恵を結集し、佐世保高専独自の素晴らしい作品を作り上げました。今回、このように文化祭を開催できたのは、スポンサー企業の皆様はもちろん、地域の方々、本校の教職員の方々、そして全学生の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。来年度以降も、学生たちの創意工夫あふれる文化祭が開催されると思います。今後とも本校文化祭をよろしくお願いいたします。



前期文化祭実行委員長 機械工学科 5年  
河野 通伸

文化祭実行委員長を務めました、5年機械工学科の河野通伸です。文化祭実行委員は今年度のテーマである「AIには作れない青さがある」をモットーに企画班はステージイベント運営、校内班は校内装飾、広報班はパンフレット作製、門制作班は門、旗の制作、イベント班は体験型イベントの展示、ブース班はブース作製を行いました。各班長・副班長を筆頭に実行委員の皆さんが放課後や夏休みに班活動を頑張ってくれました。学生の皆さん、来年度は実行委員として文化祭を盛り上げてみませんか!? 次期実行委員長が皆さんと活動できることを楽しみにしております!! 学生と教職員の方々、スポンサー企業の方々、そして地域の皆様のご協力のおかげで今年度も文化祭を開催することができました。ありがとうございました。これからも佐世保高専文化祭をよろしくお願いいたします。





## ラグビー部

年始に神戸で行われた全国高専大会では、第3位という、5年間で初めての結果を残すことができました。また、九州高専大会においても、7年間勝利することができなかった久米高専に勝利し、本年度はこれまで経験したことのない成果を挙げることができました。これまで支えてくださった先生方、保護者の皆様、そしてOBの皆様に、心より感謝申し上げます。本年度は、これまでにないほど多くのご支援をいただき、そのご恩に報いるために部員一同努力を重ねてきました。その結果が、全国第3位という成績につながったのだと思います。

本年度のラグビー部は、上級生だけではなく、下級生も積極的に取り組み、チーム全体で行動できるチームでした。そのため、来年度以降のラグビー部は、これまで以上に強く、期待されるチームへと成長していくと確信しています。

高専でのラグビー生活では、悔しさを感じ、意欲を失いかけた時期もありましたが、今はこれまで努力してきた本当によかったと心から感じています。今後はOBとして、佐世保高専ラグビー部の発展に貢献していきたいと考えています。



## 男子バスケット部

私たち男子バスケットボール部は昨年度、51年ぶりとなる全国高専大会優勝を果たしました。今年度はそんな高いブレッシャーの中で始まった1年でした。結果については九州高専大会で優勝し全国大会出場を決め、全国大会では準優勝という悔しい結果に終わりました。来年度はこの悔しさを胸に後輩達が全国優勝を成し遂げてくれることを期待しています。この部活での日々が長い高専生活の中で最も自分の成長に繋がったと確信しています。最後の最後まで私たちチームを信じ指導して下さった顧問の先生方、コーチ、OB、保護者の方々、また応援していただいたみなさんに感謝しています。今後とも私たち男子バスケットボール部の応援よろしくお願いします。



## 女子バレー部

昨年は準優勝に終わった全国大会。今年こそは優勝と、この一年間、練習に励んできました。結果は再び全国準優勝となり、悔しさの残る結果ではありましたが、全国大会に出場するにあたり、多くの方々から温かい応援やご支援をいただき、本当にありがとうございました。大好きな先輩や後輩に恵まれ、数えきれないほどの貴重な経験をするのができ、とても幸せな時間でした。チームスポーツである以上、それぞれが部活動に対して異なる考えを持つ中でも、一つの目標に向かって仲間と切磋琢磨した日々は、かけがえのない宝物です。これまでご指導いただいた先生方、応援して下さった保護者の皆さま、バレー部に心より感謝します。今年叶えることができなかった全国優勝の夢は、後輩たちに託します！今後とも女子バレー部の応援よろしくお願いします。



## 陸上部

今年度の活動として大きな転換点は、3月に長崎市で実施した学生主導の合同合宿です。コロナ禍以来初の取り組みであり、手探りで運営になりましたが、新しい知識や取り組む姿勢など様々なことを学ぶことができ非常に有意義で刺激的な時間となりました。その成果もあり、春の高総体等各種大会では昨年より大幅にベストを更新し日々の練習の成果が実を結んだ選手が多く見られました。九州高専大会では、女子が見事に3連覇を達成し、部全体の勢いを大きく押し上げました。男子も個人種目で全国高専大会に出場しただけでなく、4継やマイルでも全国の舞台に立つことができ、チームとして確かな成長を実感できた一年となりました。来年度はこれらの成果に満足することなく、男子は総合3位以内、女子は総合4連覇という新たな目標を掲げ、さらなる記録更新と全国で戦い抜く力の強化を目指します。部員一人ひとりが高い意識を持ち、互いに切磋琢磨しながら、より良い陸上部をつくり上げていきます。





## 水 泳 部

私たち水泳部は、現在は学校のプールが使用できない状況にあります。しかし、部員一人ひとりが近隣の公共施設を利用したり、陸上トレーニングに励んだり、限られた環境の中で自分たちができる練習を積み重ねています。

七月の九州沖縄地区高専大会において、男子で全国高専大会に出場することは叶いませんでした。一方、女子はリレー種目を含む七名が二位以内に入賞し、揃って全国高専大会への出場権を手にすることができました。

八月の全国高専大会では、惜しくもリレー種目での決勝進出こそ逃したものの、個人種目において二名が見事決勝へと駒を進め、入賞という素晴らしい成績を収めることができました。

水泳部の来年度の目標は、ベストタイムを更新し、男女揃って全国の舞台に行くことです。そのために、より一層練習に励んでいきます。今後とも水泳部への温かいご声援をよろしくお願いします。



## 卓 球 部

私たち卓球部は、一昨年、去年と出場出来なかった全国高専大会への出場、また九州高専大会優勝を目標とし、日々の練習に取り組みました。結果は団体、ダブルス1組が九州大会2位で通過し、団体では2年振りの全国大会へ出場することが出来ました。特に団体戦の決勝リーグではチーム全員が勝ちたい気持ちを全面に出してプレーをし、最高のパフォーマンスを発揮しました。惜しくも2対3で有明高専に敗れましたが、チーム一丸となって戦い抜いた経験は大きな自信となりました。全国大会でも、予選リーグを2位で通過し3位決定トーナメントに進むなど、全国でも十分戦えることが証明できたと思います。ただ全国大会に向けての練習時間が少なく、長期休暇中の部活に関して見直すべき点があったとも思っています。これからは全国大会での入賞を目標に更に練習の質と量を高めていきたいと思っています。



## 囲 碁 将 棋 部

去年11月に行われた長崎県高等学校総合文化祭将棋新人大会で、個人準優勝という結果を残すことができました。去年の5月に行われた高等学校将棋竜王戦長崎県大会では予選を突破することができず、自分の力不足を感じました。その悔しさをバネに、AIを使用して自分の戦法を研究したり、日ごろからの練習を頑張りました。その結果、準優勝することができてとてもうれしい経験になりました。また、団体戦においても2年生の先輩方が優勝をし活躍しました。今年の1月29日から山形県天童市で開催される全国大会でも、最後の一手まで諦めずに頑張りたいと思っています。最後になりますが、引率していただいた堂平先生をはじめ、大会運営の方々本当にありがとうございました。



## 吹 奏 楽 部

吹奏楽部は、昨年7月に行われた第70回長崎県吹奏楽コンクールに出場し、22年ぶりに九州大会へのキップをつかむことが出来ました。九州大会では「最低でも銀賞を取ろう」という目標のもと、部員一同精一杯練習に励みました。8月に鹿児島で行われた第70回九州吹奏楽コンクールでの結果は、目標にしていた銀賞を受賞しました。大学生が相手の中、銀賞を受賞できたことはとてもすごいことだと思っています。顧問の先生方をはじめとする多くの方のご協力本当にありがとうございました。

また12月に行われた長崎県アンサンブルコンテストでは木管3重奏が2年連続で金賞を受賞しました。

これからも佐世保高専吹奏楽部を応援していただくと幸いです。





## 寮務主事より

### 令和7年度を振り返って



副校長（寮務主事）  
機械制御工学科 教授

森田 英 俊

寮務主事の森田でございます。令和7年度も残すところあとわずかとなりました。保護者の皆様におかれましては、日頃より本校学寮「西雲寮」の運営に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度を振り返りますと、寮生の生活環境改善を目的とした男子大浴場の改修工事が、大きな課題となった一年でした。当初は夏休み期間中の完了を予定しておりましたが、解体後に判明した建物の深刻な劣化（柱の欠損や主筋の腐食など）により、安全確保のための追加補修が必要となりました。その結果、工期が十一月末まで大幅に延び、男子寮生諸君には寒冷期に差し掛かる時期までシャワーのみの利用という不自由を強いることとなりました。ご家庭におかれましても、多大なるご心配とご迷惑をおかけしましたことを、改めて深く

お詫び申し上げます。

しかし、この困難な状況下で、寮生たちは目覚ましい成長を見せてくれました。限られたシャワー利用時間をいかに効率的に運用するか、寮生会が中心となって知恵を出し合い、混乱を最小限に抑えるべく主体的に行動してくれました。私は常々、学寮は単なる生活の場ではなく、問題を解決する思考力やマネジメント能力を養う「技術者教育の場」であると考えております。不便な環境を逆手に取り、集団生活における「共助」の精神を実践した彼らの姿は、将来、予期せぬトラブルに直面した際の大きな強みになると確信しております。

令和8年度に向けては、一新された設備を維持するとともに、老朽化が進む他棟の改修についても、国への予算要求を継続してまいります。ハード面の整備と並行し、ソフト面では上級生が下級生の模範となるような指導体制をさらに強化し、寮生一人ひとりが「自律」した生活を送れるよう、教職員一同、誠心誠意取り組んでまいります所存です。

最後になりますが、今後とも本校学寮への変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 寮 長 よ り



機械工学科 4年

前 田 陸 翔

令和7年度後期寮長を務めております、4年機械工学科の前田陸翔です。

今年度後期より寮長を務め、来年度前期は副寮長を務める予定です。今年度は大浴場の改修が行われ、新たにシャワー室が設置されました。仮設シャワー期間中には運用ルールの試行錯誤により、たびたび変更があり寮生の皆さんにはご不便をおかけしましたが、柔軟に対応していただき大変助かりました。また、休日の部活後にも使えるよう、シャワー室の使用可能時間を長めに設定することができました。

このように快適な寮生活を送ることができているのは寮生の声に耳を傾けてくださる森田寮務主事をはじめ、主事室の先生方のおかげです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

来年度は新体制となりますがより良い寮を目指して務めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 女子棟長より



物質工学科 4年

前 田 ま こ

令和7年度後期女子棟長を務めました、4年物質工学科の前田まこです。

今年度も30名近くの女子寮生が入寮し、女子だけで90名以上が毎日とともに生活してきました。

寮生活の良さは何気ない日常にあります。テスト期間に学年・クラスの枠を越え勉強を教え合ったり、進路の悩みを語り合ったり、半期に1回の寮祭で一丸となって盛り上がったり。一人では心細いことも、寮では友達と共有し、笑い合えます。そんな中でも大勢の寮生が共に生活を送っていると、いくつものトラブルや不具合が生じます。先生方はもちろんのこと、寮生会や一般寮生の協力により、予期せぬトラブルも今年度は大事にならず解決できたと思います。この場をお借りしてすべての方に感謝申し上げます。

私は来年度前期も女子棟の棟長として新寮生会と頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

# 寮 祭



機械工学科 4年

山本 武 弥

令和6年度後期寮祭、令和7年度前期寮祭の寮祭実行委員長を務めました、4年機械工学科の山本武弥です。

西雲寮の恒例行事、寮祭について紹介したいと思います。

寮祭は1年生の歓迎会と、5年生のお別れ会として前期と後期の年に2度行われます。

西雲寮ができた当時から受け継がれてきている行事で、全寮生の楽しみの場となっています。

前期寮祭では、1年生が親元を離れて不安な生活を送る中で、寮生活を楽しいと思っていただけるようなイベント作り

を先輩寮生全員で行い、全力で1年生を歓迎します。

後期寮祭では、寮生活に慣れてきた1年生を中心に5年生を送り出す出し物を行います。数の多い1年生が加わったことで、前期よりも盛り上がりのある祭りになっているように感じます。

私は今回の寮祭で、のど自慢やビンゴ大会など、例年にはなかったプログラムを企画しました。寮祭当日は大盛り上がりで、私自身もステージに上り最高の思い出にすることができました。

このように、見る側も作る側も楽しめる祭りを、西雲寮では行っています。西雲寮に入って、最高の思い出を一緒に作りましょう。





## 学習支援室

### 学ぶとは？



学習支援室長  
基幹教育科 准教授

大 浦 龍 二

令和7年度から新カリキュラムとしてスタートした、リベラルアーツⅠの授業において、1年生を対象に、「学ぶとは？」というテーマで、授業を実施しました。校長先生からの講話の中に、『何のために学ぶか』は常々考え、アップデートを、『折角なら、楽しく「学ぶ」』という私の記憶には鮮明に残っています。

まず、『何のために学ぶか』は常々考え、アップデートを』については、私なりに考えてみました。単に知識を蓄積するだけでなく、自らの「学ぶ目的」を磨き続けることは、情報が溢れる現代において最も重要なスキルのひとつです。というようなことがリベラルアーツⅠの授業では1年生に、伝わっていればよいと個人的には思います。さて、どんな学びも真似をすることから始まりますが、学びを発展・深化させるには、「正解」から「問い」へ既存の答えを覚えるだけでは、なにか物足りない・成長が少ない気がしませんか？「正解」から「問い」へシフトするということを考えてみませんか。これは、学びを「知識の詰め込み（暗記）」から「思考の探求」へとアップデートするということです。おそらく我々、教員世代も高校くらいまでは大学受験のために、「答えがすでにあるもの」を効率よく習得する力が重視されてきました。しかしながら、AIの急激な進化に伴い、答えがすでにあるものについては、AIが瞬時に正解らしき解答を提示してくれる現代において、我々人間が磨くべきは「まだ答えのない領域に、どう問いを立てるか」が必要なのかもしれません。私自身も、実際、問いを立てることを意識し始めるようになったのは、本格的に研究を始めた大学院時代だったと思います。実際のところ、それでは、気づいて行動し始めるのが遅かったように思います。皆さんはどうでしょうか？少なくとも1

年生は、リベラルアーツⅠの授業で「学ぶとは？」という問いについて考えるきっかけはありました。あとは行動につなげるだけでしょうかね！？

つぎに、『折角なら、楽しく「学ぶ」』については、「楽しくない学び」を「楽しい学び」に変えるリフレーミングという提案がありました。勉強・学ぶことが「やらねばならない」という苦行ではなく、新しい知識を得ることで、「何ができるか」を想像することが、新たな発見を創造することに繋がると思いませんか？教科書を丸暗記では、覚えることが目的となり、受験のための勉強とゴール設定が近いように思います。正解・不正解はありませんが、後々、皆さんが納得できる選択をしてもらいたいと思います。

次年度からは学習支援室も、学生相談室などと統合され、学生支援室として、アップデートされます。その学習支援部門として、皆さんの学びをサポートします。昨年度も同様のことを記載しましたが、高専も普通の高校や大学と同じく、目標をもって勉強すれば学びを深めた、学びを得たという成果が成績という形で評価として認められます。当然、怠けてサボって勉強しないと、成績として不合格、成績不振に陥り、単位を落として留年となってしまいます。試験をパスすることも難しく、追試験や再試験となれば新しいことを学ぶための時間がその分だけ無くなります。またレポートの再提出も同じような影響があります。いずれにせよ、目標とする合格点に到達するように、自ら学びを進めるしかありません。結局は、学ぶのは皆さんです。

学習支援室としては、皆さんの代わりに勉強して、試験で良い点を取ることもできませんし、レポートを作成することもできません。学習支援室の役割は、学習する場所や時間、質問受付ができるTA・SAを配置することです。皆さんが高専で学びを深めるためのお手伝いをする組織です。

令和8年度も継続して、放課後学習会を開催します。進路実現に向けて、学びを深める、勉強するときに困ったことがあれば、学習支援室がサポートできる体制を整えているので、ぜひ利用してください。





## 学生相談室

### 学生相談室より



学生相談室長  
基幹教育科 教授

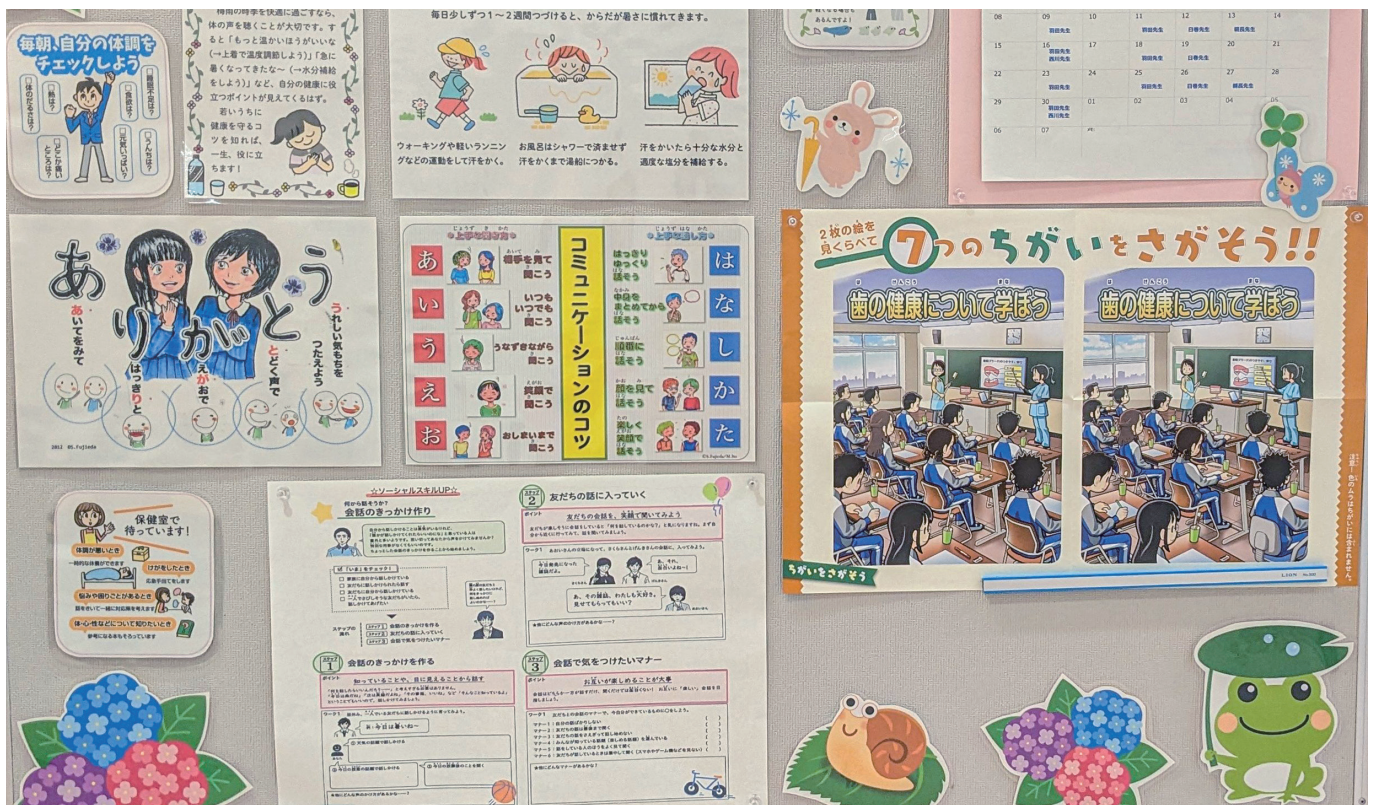
大里 浩文

学生相談室およびバリアフリー支援室を担当する大里浩文（基幹教育科・英語）です。学生の皆さん、学年末試験お疲れ様でした。1年生のみなさんも高専という新しい環境に慣れましたでしょうか。

学生相談室は、学生がよりよい学校生活を送れるように、学生の悩み、困り感、不満、苦情を聴いて、問題解決への手助けをするところです。サポート体制として、学外カウンセラーとして3名の先生（日巻優子先生、朝長明日香先生、西川真里先生）に月8日ほど来校して頂いています。スクールソーシャルワーカーの羽田泰子先生（毎週月曜日・水曜日来校）は、社会福祉の専門的な知識・技術を活用し、問題を抱えた学生を取り巻く環境に働きかけ、家庭・学校・地域の関係機関をつなぎ、学生が抱えている問題の解決に向けて支援してくれます。また、バリアフリー支援室は、「コミュニケーションが苦手」、「計画的に勉強したり、期限を守って課題を提出するのが苦手」、「レポートを書くのが苦手」といった学生の支援を行ったり、合理的配慮の検討を行っています。

学生からの相談ならどのような相談でも受け付けていますし、お子様の事に関する相談でしたら保護者の皆様方も学外カウンセラーのカウンセリングも含め相談に応じています。まずはメール（soudan@sasebo.ac.jp）にて、遠慮なくご連絡ください。

「人を思いやる心」を持ち、一日一日の高専生活、一回一回の授業やクラブ活動、ひとときひとときの身近な人との交わりを大切に過ごして下さい。希望をもって、明るく元気に頑張ってもらいたいと願います。





# 令和7年度から 佐世保高専は変わります!

## 何が変わるの?

情報系教育を強化した「情報知能工学科」、「機械制御工学科」、「電気電子工学科」、「化学・生物工学科」にリニューアルし、教育体制・教育課程を改編、全学科で受講可能な「情報系基盤技術教育」がカリキュラムに加わります。

### - これまでの学科・定員

|                     |                   |                     |                   |                      |
|---------------------|-------------------|---------------------|-------------------|----------------------|
| 電子制御工学科<br>入学定員 40名 | 機械工学科<br>入学定員 40名 | 電気電子工学科<br>入学定員 40名 | 物質工学科<br>入学定員 40名 | 4学科入学定員<br>入学定員 160名 |
|---------------------|-------------------|---------------------|-------------------|----------------------|

### - 新しい学科・定員 (令和7年度～)

| 情報知能工学科                          | 機械制御工学科                        | 電気電子工学科                       | 化学・生物工学科                     | 改組・増員後の4学科入学定員        |
|----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------|
| 5年間をとおし<br>情報系に特化した<br>科目配置、教育課程 | 情報系 特に、<br>ロボット工学を強化<br>した教育課程 | 情報系 特に、<br>半導体工学を強化<br>した教育課程 | 情報系 特に、<br>計算科学を強化<br>した教育課程 | 合計 180名<br>全体で定員20名増員 |
| 入学定員 40名 + 5名                    | 入学定員 40名 + 5名                  | 入学定員 40名 + 5名                 | 入学定員 40名 + 5名                |                       |

『DIGI+ (でじたす) 特別選抜枠』として、各学科5名増員  
※入試方法は総合型選抜とし、情報系基盤技術教育プログラムの履修を必須とする

## 2. 学科の特色 + 情報系を強化したカリキュラム構成

各学科ごとで強化された情報系カリキュラムの他、4・5年生に『DIGI+ (でじくろす)』科目群を新たに開設します。

所属学科に関係なく、  
全学生が自由に選択・受講できる!

### でじくろす DIGI+ 科目群

|         |          |         |           |
|---------|----------|---------|-----------|
| ロジスティクス | ロボット工学基礎 | 半導体工学概論 | 半導体製造プロセス |
| 画像工学基礎  | IoT基礎    | 機器分析基礎  | 社会実装技術    |
| 離散数学    |          |         |           |

自分の学科は化学・生物だけど、  
ロボットの科目を受けてみようかな?

## 3. DIGI+ 特別選抜・定員増加!

従来の推薦選抜・学力選抜に加え、新たに『DIGI+ (でじたす) 特別選抜』を実施します。

### でじたす ① DIGI+ 特別選抜 (総合選抜型入試)

9月実施 5名 × 4学科 = 20名増員

- 専門に加え、デジタル技術を身につけた人材育成を目的に新設
- 「情報系基盤技術教育プログラム」の履修必須 (3単位以上)
- 科目選択や学寮への入寮など、入学から卒業まで様々な参加優先権を付与

② 推薦選抜 12月下旬実施 24名以下 × 4学科

③ 学力選抜 2月上旬実施 16名以上 × 4学科

## 令和7年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）

### 高度情報化へ向けた学科改組における新たなカリキュラムや入試制度



改組WG座長  
化学・生物工学科 教授  
**城野 祐生**

佐世保高専では、2025入学生から情報系教育を強化した「情報知能工学科」、「機械制御工学科」、「電気電子工学科」、「化学・生物工学科」に学科改組し、教育体制・教育課程を改編しました。改組後の新たなカリキュラムや入試制度についてご紹介します。

#### (1)情報系選択科目 DIGI<sup>×</sup>

今回の学科改組において、学校全体として情報系を強化することで、全ての学科の4・5年生が受講可能な新しい情報系の教育プログラムを新設します。この情報系基盤技術教育プログラムをDIGI<sup>×</sup>（読み：でじくろす）と言います。具体的には、高専機構全体としてCOMPASS5.0（次世代基盤技術教育のカリキュラム化）による人材育成事業を実施しており、AI、IoT（モノのインターネット）、ロボット、サイバーセキュリティ、半導体（23年度にDIGI<sup>×</sup>を設計したときの5分野、25年度12月現在はこれに蓄電池と再生可能エネルギー（風力）が追加されています）の各事業分野を展開しています。これらの分野の内容を学ぶことができる選択科目を複数設定し、4・5年生の学生はこの選択科目を学科に関係なく履修することができ、規定の単位数を習得することにより、情報系基盤技術教育プログラム修了生として認定されることになっています。

#### (2)リベラルアーツ系科目

情報系の教育を強化するのに併せて、エンジニアや研究者を目指す学生としての姿勢を身につけ、学んだ知識やアイデアを社会へ発信する力を身につけるために、リベラルアーツ系科目を新設しました。改組前の令和2年度に3年次の科目として「グローバルリテラシー」という科目を新設しました。この科目は学生自身が地域の課題に国際的な視点で取り組み、対応力とチームで働く力を身につけることを狙いとした科目となっています。そして、今回の改組においてこの3年次のグローバルリテラシーにつながる科目として1年次の「リベラルアーツⅠ」および2年次の「リベラルアーツⅡ」「地域課題探究」をスタートすることとなりました。自分自身が生き抜くための人間力と高専で学んでいく知識を正しく活用できる素養を身につけることを狙いとしています。

#### (3)DIGI<sup>+</sup>（でじたす）特別選抜

25年度から新しい学科の新入生を迎えるにあたり、各学科5名ずつ定員を増やすこととしました。これまで40名のクラスであったところに5名定員を増やすため、45名のクラスとなります。この各学科の定員増の5名は特別選抜を新たに設けて選抜することとなり、今回の改組に絡めて『DIGI<sup>+</sup>（でじたす）特別選抜』という名称としました。これまで12月に推薦試験、2

月に学力試験を行っていましたが、それよりも早い9月にDIGI<sup>+</sup>特別選抜が追加されました。25年度・26年度入学者選抜ではともに定員の3倍以上の優秀な志願者が集まり、書類選考、面接の結果、各学科5名、全体20名が「合格内定」しました。

#### (4)デジタル情報教育講座

合格内定した20名の中学生はそのまま合格になるわけではありません。合格内定者に対する『デジタル情報教育講座』を受講することを合格の条件としています。4回の講座を設定し、20名の合格内定者はこの中から3回以上を受講することを原則としました。

#### 令和8年度合格内定者デジタル教育講座

【第1回】10月25日（土）『たんぱく質の立体構造予測』

【第2回】11月2日（日）（文化祭）『半導体を学ぼう』

【第3回】11月8日（土）『CAD/CAMによる工作機械の制御とPLCによるドローンの制御』

【第4回】11月15日（土）『Programming Essentials』

この講座は10月という早い時期に合格内定が決まった中学生の学問への興味、高専への興味を喚起し、勉学の重要性を再認識してもらうために設定しています。合格内定者の中には長崎・佐賀県以外の中学生もいましたが、いずれの回も多くの内定中学生が参加し、楽しそうに講座を受講していました。

#### (5)最後に

佐世保高専創立以来となる学校全体での学科改組を行い、25年度より改組後初の学生達が入学してきました。佐世保高専は長崎の県北に位置するため、志願者は長崎県や佐賀県の中学生が多かったのですが、この特別選抜を始めてからはそれ以外の県から入学してくる学生も増えました。今後は佐世保高専としての特徴を広くPRして全国から優秀な中学生に集まってもらいたいと考えています。



デジタル情報教育講座の様子



# 各方面への取り組み

## 半導体育成事業

半導体人材育成センター設立と半導体教育のさらなる発展：  
半導体を「つくり」、「つかい」、そして世界を「つなぐ」人材へ。



電気電子工学科 准教授

日比野 祐 介

私たちの生活を一番根本で支えている技術＝半導体。年が進むにつれ、半導体の示す重要性はより大きくなってきています。今年度は佐世保高専における半導体教育にとって大きな節目の年となっています。

これまで、全国高専で進められている「Society 5.0 型未来技術人材」育成事業のうち、COMPASS5.0 半導体分野での半導体教育の強化・更新における拠点として活動してきた佐世保高専ですが、この取り組みの中で始めた半導体講義は今年度、より多くの企業の方に参画していただくことになりました。諫早に工場があるソニーをはじめ、先端で活躍する企業の方々に講師に来ていただいています。この連携は今後さらに広がっていく予定です。また、半導体教育において必要な実践的実習に関して、本校で導入している革新的半導体製造装置「ミニマルファブ」と汎用装置を組み合わせたシステムを利用した実習の確立も進んでいます。

さらに、もっとも注目いただく点として、これの事業をさらに拡大し教育への取り組みを一段階上げることが狙いとして以下の理念のもとに「半導体人材育成センター（S-PORT）」を学内に設置しました。

### ・「つくる」教育：

ミニマルファブ等を活用し、製造プロセスを俯瞰できる人材を育成。

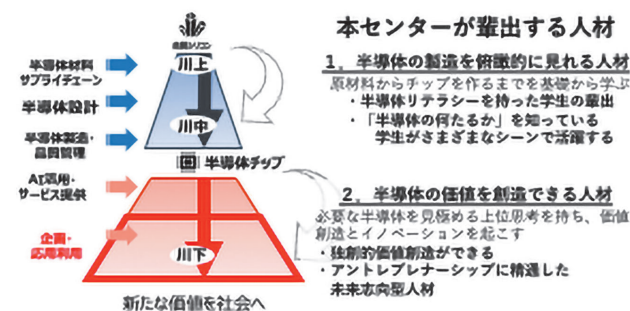
### ・「つかう」教育：

企業課題をテーマにしたPBL（課題解決型学習）を通じ、半導体をどう社会実装するかという上位のデザイン思考を養う。

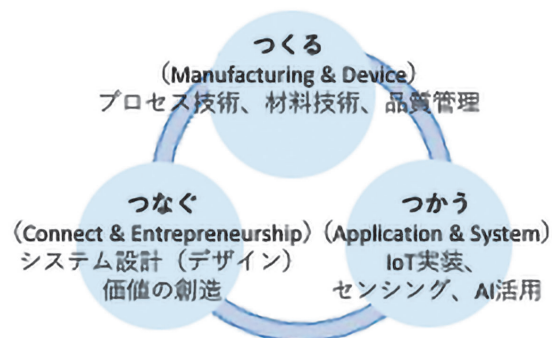
### ・「つなぐ」ネットワーク：

全国高専と産業界の窓口となり、教育コンテンツの配信や学生と企業のマッチング、社会人の学び直し（リカレント／リスキリング教育）を推進する。

S-PORTは単なる「技術者の供給源」に留まらず、新たな産業を生む「オープンイノベーションのプラットフォーム」を目指します。佐世保から世界へ、半導体という武器を手にした若きエンジニアたちが漕ぎ出していく――。佐世保高専ならびにS-PORTは、日本のデジタル産業の再生に向けた挑戦の拠点として、若い力と産学官の共創を牽引していくため今後もより進化を続けていきます。今後どうぞご期待ください。



## 本センターが提供する価値のコンセプト



## GEAR5.0

### GEAR5.0 について



機械制御工学科 准教授

西口 廣志

GEAR エネルギー環境ユニットは令和4年の始動から4年目を迎え、本年度で最終年度となります。現在はNEDO共同研究フェーズとして、水素エネルギー製品研究試験センター（HyTReC）にて2度目の耐圧サイクル試験を実施しており、製膜を施した材料の有用性を確認しているところです。製膜材の適用先拡大に向け、現在は材料の強度特性における弱点の洗い出しに注力しています。強度低下の要因分析や、膜のき裂による水素侵入防止効果への影響、溶接材への製膜不良の検証など、学生たちの真摯な取り組みにより、成功への明確な道筋が見える重要な知見が得られました。

これらの成果を基に、現在は長崎県や佐賀県の地元企業4社との共同での研究開発も開始しています。自治体からも、「小学校の廃校を実験施設として提供していいよ」といった温かいお声を賜るなど、地域連携の輪が広がっています。エ

ネルギー安全保障の観点からも、自然エネルギーを水素として蓄える技術は不可欠です。本プロジェクト終了後も、技術開発・社会創生・人材育成の三本柱を軸に、水素社会の実現へ向けて邁進してまいります。



KOSEN水素フォーラム2025 in NARAにて講演



KOSEN 水素ビジョン2025 in 鈴鹿サーキット



# 各方面への取り組み

## EDGE キャリセンター

### 『やってみよう!』が未来を変える第一歩



EDGE キャリアセンター長  
電気電子工学科 准教授  
**猪原 武士**

佐世保高専では、全国に先駆けて「地球規模で活躍できるアントレプレナーシップを持つ学生」を育成するため、EDGE キャリアセンターを設立しました。今年で7年目を迎える当センターでは、佐世保市や長崎県などの行政機関、地域企業、さらに高専 OBOG の支援を受け、学生たちが実践を通じて学び、挑戦できる環境を提供しています。今年も100名以上の学生がこの活動に参加し、自らの可能性に挑戦しています。また、佐世保高専の取り組みは全国の高専の中でも注目を集めてパイロット校に選出されており、その情報を広く発信しています。

#### EDGE キャリアセンターが挑戦をサポート!

EDGE キャリアセンターでは、初めて挑戦する学生を手厚くサポートするため、技術勉強会の開催や、実績のある先輩、高専 OBOG によるメンタリングを実施しています。こうした支援を受けた学生たちは、県内のものづくりアイデアコンテストでの金

賞受賞や、高専ワイヤレステックコンテスト (WiCON) での採択など、数々の成果を上げてきました。これらは学生たちが主体的に行動した結果であり、その姿勢は社会からも高く評価されています。

また、グローバルな視点を養う取り組みとして、本年度はオーストラリア、カナダ、フィリピン、タイ、中国の海外5か国での国際研修を実施し、45名を超える学生が参加しました。さらに、EDGE キャリアセンターでは国際研修への旅費助成を行っており、最大9万円(返済不要!)の支援を受けることが可能です。この助成は、佐世保市との連携事業である「ふるさと納税」による寄附金を財源としており、海外研修への挑戦をより身近なものにしています。現在、EDGE 活動を行うための専用スペースも整備しています。ぜひご活用ください!

#### 未来をつかむ第一歩を踏み出そう!

教室では体験できない新しい世界が、社会とのつながりや学外での挑戦を通じて広がっています。まずは『やってみよう!』の精神で、一歩を踏み出してみませんか? その行動が、きっとあなたの高専生活をより充実したものに変えてくれるはずです。

ぜひ、あなたも EDGE キャリアセンターの活動に参加し、新しい可能性と一緒に探求しましょう! 保護者の皆様におかれましても、学生の挑戦を温かく後押しいただけますと幸いです。

## アントレプレナーシップ部門

### 長崎学生ビジネスプランコンテスト2025

物質工学科 2年



菊池 優里  
中川 璃音  
関口 舞

私たちはドライヤーに取り付ける福祉用具についてのビジネスプランを提案しました。提案した福祉用具には4つの指を通す穴がついており、手を全て離してもドライヤーが落下しません。マジックテープで取り外しが可能な仕組みになっています。案が決まってからは多数の老人ホームや理学療法士の方への聞き込み、そしてそれを踏まえた実物制作に取り組みました。実物制作では1部先生方に協力してもらい、部品を作成してもらったりもしました。本選では、どのチームもレベルが高くとても緊張していましたが、私たちの商品の良さをしっかり伝えることができ達成感を感じています。このコンテストを通してビジネスの面白さや難しさ、そして効果的な発表の仕方など、これからの人生において役立つ多くのことを学ぶことができ、とてもいい機会になりました。

### 亀山電機「第11回学生ものづくり&アイデアコンテスト」金賞

電子制御工学科 3年



城野 生羽  
大嶋 妥聞  
川久保 光莉  
高木 華恋  
関口 舞

チーム「城野と愉快的仲間たち」です。私たちは高齢者の「探し物が大変」という問題と「見守り」を同時に解決するデバイスを提案しました。無くなると困るリモコンや財布などにビーコンを付け、自作アプリケーションで探したいものの名前を音声で入力すると音と振動で案内をしてくれます。また、よく使う財布などが一定時間使われない場合は異常と判断し、家族のスマートフォンに通知が送ります。そのため離れて暮らす家族も高齢者の様子を確認でき、安心につながります。

このコンテストに参加したことで、身の回りの困りごとを改めて見つめ直すきっかけになりました。また、普段は当たり前だと思っていたことも視点を変えることで新しいアイディアに繋がることを実感しました。この経験を今後の学習やものづくりに活かしていきたいです。

## ■ ふるさと納税

### ふるさと納税を活用した支援事業およびEDGEキャリアセンター基金へのご支援に対する御礼

電気電子工学科 准教授

#### 猪原 武士

令和4年度より、佐世保市と連携し、ふるさと納税を活用した「佐世保高専 EDGE キャリアセンター支援事業」を実施しております。本事業では、寄付金の半分以上が佐世保高専の事業費として配分される仕組みとなっています。寄付者は佐世保市にふるさと納税を行うことで、通常の返礼品を受け取りながら佐世保高専を支援することが可能です（※佐世保市内在住の方は返礼品を受け取ることはできませんが寄付は可能です）。

令和4年度および令和5年度には、1,000万円、令和6年度には1,500万円の寄付をいただくことができました。さらに令和7年度には寄付目標額を増額し、2,000万円ものご支援を賜りました。この寄付金は、EDGE キャリアセンターが支援する海外研修の旅費助成やプロジェクト開発費などに活用させていただいております。この場をお借りして、ご支援いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

また、EDGE キャリアセンター基金（寄付金）においても、多くの団体および個人の皆様から温かいご支援をいただいております。これらのご寄付もふるさと納税の寄付金とあわせて、学生の支援に有効活用させていただきます。改めまして深く感謝申し上げます。

「お金がないからできない」という教育機会の損失をなくすべく、皆様からのご支援を受けながら、挑戦する学生たちを引き続き支援してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

プロジェクトをさがす
応募寄付総額 25,999,621,366 円
ふるさと納税ガイド
お気に入り
寄付する

プロジェクトをさがす
応援メッセージ
GCF®とは
ふるさとチョイス
災害支援

TOP > 過去実績 > 佐世保高専「モノづくり」だけでなく、「コトづくり」が出来る学生を育てたい

### 佐世保高専「モノづくり」だけでなく、「コトづくり」が出来る学生を育てたい

カテゴリー: 子ども・教育



✕ ポスト いいね! シェアする

寄付金額

21,217,000円

106%

目標金額: 20,000,000円

達成率

106%

支援人数

1,062人

終了まで

受付終了

📍 長崎県佐世保市(ながさきけん させぼし)

♡ お気に入り

このプロジェクトは終了しました



ふるさと納税寄付サイトの情報



# 各方面への取り組み

## 国際交流

### 保護者の皆様へ



情報知能工学科 教授

#### 前田 貴信

本校が進める国際交流およびグローバル人材育成の取組についてご報告いたします。本年度より、国際交流に関する業務は EDGE キャリアセンター国際交流部門に一元化され、学生の留学支援や教員の海外派遣などをより効果的に推進できる体制を整えました。

国立高専機構では昨年度から「グローバルエンジニア育成事業」第2期が始まり、本校は「国際的地域性を活かした英語の壁を乗り越えるグローバルエンジニア育成プログラム」を掲げて、世界に挑戦する技術者の育成を強化しています。フィリピンやタイの協定校への派遣に加え、佐世保市の姉妹都市である中国・廈門市との交流も継続しており、今年度は夏季に3名をタイへ、春季には3名をフィリピンへ派遣予定です。JASSO の留学支援制度を活用し、学生が専門科目の履修や文化交流を少ない負担で経験できる点も大きな特色です。

短期語学留学も拡充しており、夏季はフィリピン・オース

トラリア、春季はフィリピン・カナダと、多様な学びの場を用意しています。今年度は夏季に22名、春季に16名の学生が参加を予定しています。

また、佐世保市のふるさと納税を活用した支援金制度により、学生が経済的な不安を抱えずに海外へ挑戦できる環境を整えています。安全面についても、国立高専機構の危機管理ガイドラインに基づき、十分な対策を講じています。

加えて、佐世保ならではの米軍基地内エレメンタリースクールとの交流や、海外で広がる「KOSEN」教育への教員派遣など、国際連携の幅も年々広がっています。

本校は今後も、学生たちが「世界は広く、面白い」と実感し、その経験を将来のキャリア形成へつなげられるよう、国際教育の充実に努めてまいります。

## 国際交流部門

### 語学留学(フィリピン)

物質工学科 2年

#### 原 野 ひなた

私は英語力の向上に加え、異文化への理解を深めたいと考え、フィリピン語学留学に参加しました。英語を使いながら海外で生活することで、言語だけではなく文化や価値観も学べると考えたことが、参加のきっかけです。

研修中は、マンツーマン授業を中心に、英語を聞く・読む・書く・話す学習に取り組みました。特にディスカッションの授業では、自分の考えを英語で伝えるだけでなく、相手の意見や背景を理解することの大切さを実感しました。また、英語を使った活動や現地の人々との交流を通して、フィリピンの明るく温かい文化に触れることができました。

この研修を通して、英語を話すことへの不安が減り、異なる文化を受け入れながら関わる姿勢が身につきました。

今後はこの経験を活かし、英語学習や他国との文化交流に積極的に取り組んでいきたいです。



### 語学留学(シドニー)

物質工学科 5年

#### 大 串 将 也

私は夏季休暇中の2週間、英語の実践と多文化の理解を目的として、シドニー中心部の職業専門学校「TAFE NSW」へ通い、ホームステイを経験しました。学校では、多様な国籍・職業・年齢の留学生と共にグループワークや発表に取り組み、英語力だけでなくコミュニケーション力も伸ばすことができました。放課後はオペラハウスやタロンガ動物園などの観光地を巡り、ホームステイ先では日本とは異なる生活習慣や食生活を体験することで、現地の文化を肌で感じることができました。

この留学を通じて最も大切だと感じたことは積極性です。自らアクションを起こし、自ら多様な人々と関わることで、初めて多くの学びや成長が得られると実感しました。今後はこの経験を活かし、海外大学への進学や海外勤務も視野に入れ、不自由なく英語でコミュニケーションができるよう、一層学習に励んでいきたいと考えています。



## JASSO協定派遣体験記

### 留学を通して



電子制御工学科 3年

西山 幸星

私は実践的な英語力の向上と、専門科目への理解の向上を目標として、泰日工業大学への留学を行いました。

私は泰日工業大学で、専門科目、英会話などの講義や、研究室に入っの実験などの活動を行いました。英語で進められる専門科目の講義では、プログラミングといった技術そのものに加えて、技術的な英語の語彙も学ぶことができました。

私が留学に行って驚いたこととして、泰日工業大学では、タイ語、英語に加えて日本語を話すことができるトリリンガルが多く、英語は話せて当たり前というような状況であったことが挙げられます。英語学習だけで根を上げてられないと感じ、私の中での言語学習へのモチベーションが高まりました。

私は留学を通して、専門科目への理解や語学能力を向上させ、自身の視野を広げることができました。この経験を将来の進路決定に役立てていきます。

### トビタテ！留学 JAPAN のすすめ



電子制御工学科 3年

本土 四葉

官民共同の留学プロジェクト「トビタテ！留学JAPAN」第10期生として採択され、ドイツ・ミュンヘンに約2か月間留学しました。過去の私の経験や日本の子供の精神的幸福度が先進国の中でほぼ最下位という現状から「教育と子供の幸福とITの可能性」について興味を持ち教育先進国であるドイツへの留学に至りました。前半では世界中からバックパッカーが集まるユースホステルに滞在し、様々な国の人たちと共に自炊したり観光したりしました。またその期間中に語学学校でドイツ語を学びました。後半はドイツの教育を体験するため現地の学校に1か月間入学しドイツの学生と共に授業を受けました。日本とは大きく異なる教育方法や学生と先生の自由な姿勢にとっても感銘を受け、日本の公教育のデメリットが分かったともに素晴らしい点も痛感しました。またその期間はホームステイしました。とても親切な家庭で私のもう一つの故郷ができました。今回の留学はホームステイ先なども完全に一人でアポイントを取って作成したものでした。大変な苦労や危機もありましたが、帰国の際にはイギリスやフランス、オーストリアに立ち寄るなど、自由な留学ができました。だからその特別な出会いもあり、ドイツで出来た友達がこの夏佐世保に遊びに来てくれる予定です。また、留学を通して将来成し遂げたいことも明確になりそのスタートを切るこ

とができています。私の人生においてとても大きな2か月間でした。





# 各方面への取り組み

## サイバーセキュリティボランティア

### 令和7年度の活動を振り返って



電子制御工学科 5年

森 優 佐

サイバーセキュリティボランティアは、長崎県警と連携しながら、小中学校などへ講演を行っています。

本年度も、長崎県警様より委嘱状を交付していただき、株式会社ラック様より事前講習会を開催いただいたところから始まりました。本年度は、佐世保高専での新入生に向けた情報モラル講習会と小学校での講演が2件ありました。

佐世保高専での新入生に向けた情報モラル講習会は、昨年度に引き続き2回目の実施となりました。高専生活において必要な情報モラルを伝えることを目的としています。

小学校での講演の1件目は10月29日に港小学校で6年生とその保護者の方を対象に行いました。講演内容としては、インターネットの使い方と、オンラインゲームにおける課金についてでした。児童の皆さんの真剣な表情と、多くの質問をいただいたことが強く印象に残っています。

小学校での講演の2件目は12月12日に猪調小学校で4、5、6年生とその保護者の方を対象に行いました。講演内容としては、インターネットの使い方と、オンラインゲームを楽しくプレイするための方法についてでした。

昨今ますますスマートフォンは子供たちの身近なものになっています。令和6年度の1年間でSNSを利用して犯罪被害にあった子供の数は1486人でした。情報技術は、正しく使うことで我々の生活を豊かにすることができるものです。この活動が今後被害にあう子供たちを減らすことに願います。



### 令和7年度 Robogals の活動報告

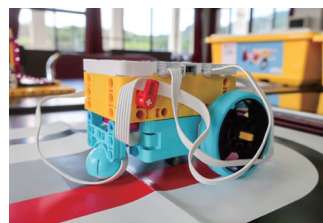
基幹教育科 教授

塚 崎 香 織

Robogals (ロボギャルズ) は、工学を学ぶ楽しさを女子の小中学生に伝えるため、2008年にオーストラリアで設立された国際的なボランティア団体です。佐世保高専でも、2023年から女子学生の有志が集まって活動しています。現在のメンバーは本科1年生から5年生までの12名の女子学生です。今年度は、電気電子工学科の石橋春香先生も加わってくださり、LEGO ロボットの組み立て、プログラミング、ものづくりのワークショップを実施する上で、技術面も充実してきました。幼児や小中学生の参加者にとって、よりわかりやすく、より魅力的なワークショップを実施するために、メンバーで助け合いながら切磋琢磨しています。

令和7年度は、8月26日(火)に西海市教育委員会のお招きで西海市西彼教育文化センターを訪問しました。幼児と小学生向けにはSONYのロボットトイ (Toio) を用いてプログラムの思考を教え、中学生にはLEGO ロボットを組み立て、iPadでプログラミングしてもらいました。中学生は短時間でも大変器用にLEGOを組み立て、細やかにロボットの動きを調整していました。11月2日(日)に実施された佐世保高専文化祭のRobogalsのものづくりワークショップ(ネジ、ナット、竹ひごで作ったロボットが坂を歩く)では、幼児から大人まで64名の参加者と54名のご家族の皆様にご来場いただきました。11月15日(土)には、今回は3

回目のお招きとなる北松浦郡佐々町立佐々小学校「わくわく佐々つ子フェスタ」で、6年生2クラス57名に、SONYのロボットトイ (Toio) を用いて、プログラムの思考を教えました。後日お礼の作文集をご送付いただき、学生と一緒に感激しております。また、2月1日(日)の佐世保市少年科学館「サイエンス広場で遊ぼう」では、ペーパークロマトグラフィーを用いて、「色の科学」をテーマにしたワークショップを実施し、親子30組にご来場いただきました。ペーパークロマトグラフィーは、長岡技大・TExDI発案のワークショップで、このたび長岡技術科学大学との連携で実現しました。これからも工学を学ぶ楽しさを広めるために活動を行って参りますので、佐世保高専のRobogalsをどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 地域連携

### 地域共同テクノセンターより



地域共同テクノセンター副センター長  
情報知能工学科 准教授

佐藤 直之

センター長の坂口に代わりまして副センター長の佐藤がご挨拶申し上げます。日頃より西九州テクノコンソーシアム事業に関わってくださる会員企業様および学内の関係者様に改めて御礼申し上げます。今年度も技術相談会や、工場見学会、研究補助など様々な機会でお世話になりました。

昨年度から委員として本会に関わったばかりの未熟者ではありますが、当時はホームページに関わる業務が中心だったことを覚えています。作成を行ったのは亀山電機様で、我々高専の人間はいろいろ意見や要望を伝えるばかりではありましたが、特に記憶に残っているのは「UターンIターン検索システム」に関する話し合いで、まずこのシステム自体に私は温かみを感じていました。意気揚々と都会に繰り出した高専卒業生たちも、みんながみんな上手くやっていたわけではないことでしょう。そのようなときにも地元の企業がOBに手を差し伸べてくれる。もちろん両者にメリットがあって存続している制度だとは思いますが、優しさを感じられて良

いと思っています。そして具体的な運用に関しても、卒業生にどうやってこのシステムの告知をするかが悩ましく、紙にするか電子媒体にするかを皆でいろいろ話し合いました。

それと印象的だったのは総会です。様々な企業の担当者様が一堂に会していろいろなことを話し合い、懇親会では様々な方から積極的に話しかけていただいたことを覚えています。私の方は特に面白い受け答えも出来ずに、話題も少なく、本音をいうと内心びくびくしていましたので助かりました。高専から企業様へのニーズ、企業様から高専へのニーズ、双方向の需要を結び付けられる本会の価値がますます高くなっていくことを祈りまして、頼りない代筆の副センター長が筆を置かせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。



### 企業技術セミナー

例年、西九州テクノコンソーシアム（NTC）と共催し、本科4年生及び低学年（令和7年度：2年生）向けに企業技術セミナーを開催しています。

本セミナーは、佐世保高専の学生に対し実践的な早期キャリア教育を行うとともに学生が地元企業の技術力や魅力を知る機会を提供し、卒業時のみならず進学先や卒業後、Uターン等の将来的な地元就職を促進することを目的としています。

令和7年度は、令和7年12月1日（月）に本科4年生を対象に、また、令和8年1月14日（水）には本科2年生を対象に開催されました。

今年度は、計56社のNTC会員企業の皆様にご参加いただき、関連する業界団体の具体的な仕事内容や、各社の技術力・魅力などを含めた事業内容をご紹介いただきました。

学生からは、「先輩社員の話がとても参考になり、企業のことをもっと知りたいと思った。」「事業内容や、福利厚生について詳しく説明してもらえた。」「将来について悩み始めている時期に、企業の方々から直接お話を聞いたのはとてもいい機会だった。」等の感想が寄せられました。今後もNTC会員企業の魅力や技術力を学生に伝える機会を図っていきたく存じます。

※西九州テクノコンソーシアム（NTC）

…長崎県北地域の産業と文化の発展に寄与することを目的に設立された西九州地域を中心とした産学官民による連携組織。





# 各方面への取り組み

## 公開講座・おもしろ実験

様々な実験や観察、ものづくり等を通じて、地域の子ども達に自然の不思議や科学の面白さを体験してもらい、理科教育の推進等を目的とし、学校開放イベント「公開講座・一般教養講座」と「おもしろ実験 in 浜の町アーケード」及び「おもしろ実験 in 文化祭」を開催しました。また、令和8年2月28日(土)には、「おもしろ実験 in ゆめタウン佐賀」を他高専（岐阜高専、

奈良高専、久留米高専）と連携して開催しました。

開催期間中は、科学に興味のある小中学生延べ1,000名を超える方々にご参加頂きました。どの講座も笑顔であふれ、受講者の皆様に大変楽しんでもらえたイベントとなりました。ご協力いただきました教職員及び学生の皆様に感謝いたします。

| 実施日   | 公開講座                                          | 対象                |
|-------|-----------------------------------------------|-------------------|
| 7月12日 | はじめての TOEIC 入門講座                              | 社会人               |
| 7月26日 | 目指せ、デジタルクリエイター～モーションキャプチャー体験&オリジナルキーホルダー制作体験～ | 小学5年生～中学生         |
| 7月26日 | 化粧品×化学 ～おしやれを化学で考えよう～                         | 中学生               |
| 7月26日 | おとなのための英語の学びなおし講座（日常英会話編）                     | 社会人               |
| 7月26日 | ゲームプログラミング ～ ゆるゆるシューティング！                     | 中学生               |
| 7月26日 |                                               |                   |
| 7月29日 | Sasebo Challenge Laboratory (SaCLa サクラ)       | 中学生               |
| 7月31日 |                                               |                   |
| 7月26日 | ロジカル中学英文法 ～現在完了編～                             | 中学生               |
| 8月6日  | 未来を描く：中学3年生のための自分発見ラボ                         | 中学3年生             |
| 8月6日  | 技術室親子ものづくり体験講座                                | 小学生～中学生とその保護者     |
| 8月18日 | toio で学ぶプログラミング教室                             | 中学生               |
| 8月19日 | スポーツ科学×情報工学 VRを用いた状況判断能力を向上させよう               | ①小学5年生～小学6年生 ②中学生 |
| 8月19日 | 3DCG (3次元コンピュータグラフィックス) を作ってみよう！              | 中学生               |
| 8月19日 | 親子おもしろ工作教室「イライラ棒をつくってあそぼう！」                   | 小学3年生～小学6年生とその保護者 |
| 8月20日 | チェッカーフラッグを目指せ！～プラズマを用いたモータ原理の学習～              | 小学5年生～中学生         |
| 8月20日 | 動画画像処理を使って生き物やヒトの動きを探ってみよう！                   | 中学生               |
| 8月25日 | はじめての iPhone/iPad 3D スキャン                     | 小学5年生～中学生         |
| 8月26日 | Scratch でトイドローンを自動飛行させよう！                     | 小学3年生～小学6年生       |
| 8月27日 | ハッカー体験！？ ～Linux コマンドをつかった宝探し～                 | 中学生               |
| 1月17日 | ドローンと iPhone LiDAR で、ぐるぐる回る文化財の3Dモデルをつくる！     | 中学1・2年生           |
| 1月17日 | 物語の香りを調合するー古典文学と化学が織りなす、創造のレシピー               | 女子中学生・女子高校生       |
| 1月25日 | 画像生成 AI に触れて著作物を守る電子透かし技術を学ぼう！                | 中学1・2年生           |

| 実施日  | おもしろ実験 in 浜の町アーケード                                                                                                                                                         |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月6日 | 熱電変換ってなんだ！？<br>toio で楽しくプログラミング<br>ブラダで作るかっこいいゴム鉄砲<br>電気の不思議に触れてみよう<br>人エイクラを作ってみよう！<br>くずれそうなの立っている！？ テンセグリティを作ってみよう！<br>放射線がつくる飛跡（飛行機雲）を見てみよう！<br>シャボン膜が作り出す不思議な世界へようこそ！ |

| 実施日   | おもしろ実験 in 文化祭                                                                                                                                                       |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月2日 | ブラダで作るかっこいいゴム鉄砲<br>世界に一つだけ！自分だけの指しブリカを作ろう！<br>見てわかる！やわらかい材料の科学～ソフトマテリアルを学ぼう～<br>ダンシングスネークと紙コプターを作ってみよう！<br>目玉クリップコトコ<br>遊星歯車キーホルダーを作ろう<br>透明サイコロを作ろう<br>電子レンジでガラス細工 |

| 実施日   | おもしろ実験 in ゆめタウン佐賀                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月28日 | 水素ロケットを飛ばそう（Gakken 協力）<br>toio で楽しくプログラミング<br>アクリル板でものづくり<br>電卓の元祖！？ 円形計算尺を作ろう！<br>ストリングアート（糸かけ曼荼羅）が織りなす美しい世界へようこそ！<br>マイナスの世界 液体窒素でいろんなものを凍らせよう<br>オリジナル練り香水をつくらう！<br>未来のエンジニア集まれ！ロボット・学生作品展示&回路づくり体験<br>動くロボットをブロックで作ろう<br>シュワットとはじけるバスボムクラフト体験<br>幾何学模様をデザインしよう～イスラム文様からペンローズまで～ |

(令和8年1月20日現在)



## 令和7年度一日体験入学

今年度の「一日体験入学」を8月23日（土）に実施しました。

当日は、中学3年生の生徒262名、引率者219名、合わせて481名の方が参加くださり、参加生徒は、班毎に分かれて、各学科の実験・実習を体験しました。引率者の方は生徒と一緒に実習・実験を見学したり、学科の保護者対象説明に参加したりしました。

体験終了後には、学寮の説明会や学科の進学相談会、女子中学生向け相談室が開催され、こちらも多くの方にご参加いただきました。

### 【各学科体験の様子】



機械制御工学科



電気電子工学科



情報知能工学科



化学・生物工学科



【終了後の相談会の様子】

## 令和7年度高専説明会

令和8年度入試のための高専説明会を6月15日（日）と10月12日（日）に開催いたしました。

長崎・佐賀・福岡県から6月には184名、10月には61名の中学生とその保護者の方に参加いただきました。令和8年度DIGI+入試、推薦・学力入試の概要や、高専とはどういう学校でどんな勉強をするのかといった説明を本校の教員から行いました。6月の説明会後には令和7年度からリニューアルされた学科が体験できる事前申込制の公開講座を、10月の説明会では在学生からの学校説明をそれぞれ行いました。

### 【高専説明会の様子】



### 【公開講座の様子】



機械制御工学科



電気電子工学科



情報知能工学科



化学・生物工学科

参加者からは、「実際にさわって動かしたり、実験ができたのが面白かった。先生方や高専生の説明も分かりやすかった。」「一日があつという間に感じるくらい楽しかった。」「いろいろな体験ができたので、それぞれの学科の魅力が分かってよかった。」「とても楽しく、ためになる話を聞いた。皆さんの対応が親切で質問もしやすかった。このようなところへ入学したいと強く思えた。」等の感想が寄せられました。

参加者からは、  
「私のやりたい事に繋がる学習が出来ると思った」  
「佐世保高専がどのような場所でどのような人たちが何をしているのか具体的に知ることが出来た」  
「佐世保高専の学生の方が活き活きと活動されているのがすごく伝わってきて、魅力的だった」  
「説明も分かりやすく公開講座も非常に興味深く参加させてもらった。教授の熱のある授業に引き込まれてまた授業を聞いてみたいと思った」  
「とても進んだ技術にも触れることができて、一層高専で学びたいと思った」等のたくさんの意見が寄せられました。



## 退職する教職員より

### 退職にあたって



機械制御工学科 嘱託助教

石橋 真

平成26（2014）年4月に着任してから12年が経ちました。着任前は企業にてパソコン周辺機器（ハードディスクドライブや光ディスクドライブ等）を中心に設計・製図・製品化に携わっておりました。授業を通して企業時代の生きた図面の書き方を学生へ伝えたつもりです。1年生、2年生の機械デザイン学にて設計・製図の基礎、3年生のものづくりでは歯車減速機の設計・製図、4年生の機械工学実験では3年時の授業で製作した歯車減速機を評価、5年生の機械システム設計1では手巻ウインチの設計・製図等です。その他にも1年生のコンピュータ基礎、3年生のプログラム基礎等も授業担当させていただいた年度があります。ふと、コロナ禍での授業対応も思い出されます。

次に、平成27年より顧問をさせていただいたロボコンプロジェクトでは、全国大会（両国国技館へ）へ4回も学生に

連れて行ってもらいました。H28年 黄色い開拓者（イエロー・パイオニア）、H30年 火種は技術賞 ベスト8、H31年 ふぁん FUN ファンドリーは初戦敗退、R5（2023）年 響嵐（キョウラン）も初戦敗退もアイデア倒れ賞。特に印象に残っているのはH28年の火種です。学生の拘りのアイデアが全国的に認められ、非常に嬉しかったことを記憶しています。追加でR5年11月27日（月）、全国帰路の飛行機で乗客に急病人が出て、松山空港に緊急着陸、長崎空港到着が1時間程遅れ、ドラマの“医療関係者は居ませんか”を生で聞きました。また、H31年は改修により機械C棟2階からものづくり工房への部室の引越もありました。当時の部員達は煩雑な部室の引越と同時に全国出場を果たしています。

最後に、ロボコン部員にかかわらず学生へは今後のそれぞれの分野で活躍を期待しています。また、これまで、大過なく務めることができたのも教職員を含む多くの方々のおかげだと、思っております。本紙面をお借りしてお礼申し上げます。長い間ありがとうございました。

### 退職にあたって



化学・生物工学科 嘱託教授

長田 秀夫

いよいよ3月で本校を退職することになりました。平成9年に本校に着任してから約30年お世話になりました。この間に学科長として2年間、寮務主事として2年間、図書館長として2年間の合計6年間運営に携わってきました。思い返してみるとこの6年間はゴタゴタが多い年でもありました。学科長と図書館長の4年間は建物の改修のタイミングでした。特に、図書館の改修では多くの蔵書を廃棄せねばならず教職員の方々から様々なご批判ご意見を頂きました。改修により蔵書を置くためのスペースが狭くなったことが原因ですがもう少し方法がなかったかと未だに考えることがあります。また、寮務主事の時は新型コロナウィルスが出始めた時であり当時正体が全く分からなかったウィルスの出現に私の能力不足もあり対策が常に後手に回っていたように思われます。感染防止のために大きな入寮制限をしたこと、他室訪問

禁止等の寮生活を制限したことについては寮務主事の責任が大きいと思っております。特に大きな問題とならなかったのは、寮務主事補の先生や寮務関係事務職員さらには寮長および女子棟棟長をはじめとする寮生会役員の有能さのお陰であると大変感謝致しております。

担当した物理化学についてはレベル設定や授業方法で多くの方からご批判を頂きました。教科書に登場する化学式よりも数式の方が多かったことから数学があまり得意でない学生にとっては苦痛以外の何者でもなかったかもしれません。当然、学生による授業評価は散々なものでした。吹奏楽部の定期演奏会のある年のパンフレットに学科の主要な科目が紹介されておりましたがその中に物理化学がなかったのは少しでも忘れたという学生の願望かもしれません。

そろそろ予定されている文章の長さになりますので中途半端な感じになりましたが終わりと致します。最後になりますが、佐世保工業高等専門学校の末長いご発展を心よりお祈り致しております。

## 退職にあたって



基幹教育科 准教授

濱田 裕 康

2026年3月末で離職することになりました。大学院の博士後期課程修了し、研究員などを経た後、2014年4月に佐世保高専に着任しました。それから12年間にわたり、勤務をさせていただきました。退職にあたり、私が感じていることを書かせていただきます。キャリア理論の中にクランボルトの計画的偶発性理論というものがあります。私が正確にこの理論を理解できていないかもしれませんが、ここでキャリアは、偶然の出来事の積み重ねで形成されていくとされています。

12年前、私は数学の教員として着任しました。着任した当時は、情報の授業を担当するとは思っていませんでした。高校の情報の免許を所持していたものの、授業は全く実施したことがありませんでした。着任後、情報の授業も行っただけと聞かされ、戸惑いました。今では当たり前のように、

情報科目を担当していますが、当時はなかなか大変だったことが思い出されます。

偶然に担当することになった情報科目ですが、これをきっかけに、情報科目も担当できる数学教員として、プラスに働いていくことになりました。そしてステップアップとして、4月からは岡山理科大学の自然科学教育センターの教員として働くことになります。数学の教員として着任しますが、情報関係の授業科目も担当するように伺っています。

退職にあたり、高専を離れることに寂しさも感じています。できることなら、高専の教員も続けたいと思っていました。これからは高専の一ファンとして、高専を応援していきたいと考えています。

また、これからも偶然を意識したいと思っています。多くの方は、なかなか偶然を楽しもうと思うことは少ないのかもしれませんが、ただその先に何かプラスがあると考え、突き進むことも重要だと思っています。ぜひ皆様も少し意識してください。

最後になりましたが、今までどうもありがとうございました。また機会がありましたら、佐世保高専に伺います。



# 令和8年度主要行事予定

4

April

- 2(木) ■ 入学式
- 3(金)～7(火) ■ 新入生オリエンテーション
- 23(木) ■ 開校記念日
- 24(金) ■ 寮祭
- ◆その他の主な行事：健康診断

5

May

- 13(水) ■ 競技大会・学生会総会
- 29(金) ■ 高総体開会式
- 30(土)～6/5(金) ■ 高総体

6

June

- 5(金)～10(水) ■ 前期中間試験
- 20(土) ■ 前期交通安全講習会
- ◆その他の主な行事：防災避難訓練(隔年実施)

7

July

- 12(日) ■ 保護者懇談会
- 上旬～中旬 ■ 九州沖縄地区高専体育大会
- ◆その他の主な行事：保護者授業参観日

8

August

- 4(火)～10(月) ■ 前期定期試験
- 12(水)～9/23(水) ■ 夏季休業
- 12(水) ■ 1日体験入学
- ◆その他の主な行事：公開講座、全国高専体育大会

9

September

- 6(日) ■ 保護者懇談会
- 24(木) ■ 後期授業はじめ
- ◆その他の主な行事：4年生工場見学

10

October

- 14(水) ■ 学生会長選挙
- 18(日) ■ 体育祭・ロボコン九州地区大会
- ◆その他の主な行事：卒業研究中間発表

11

November

- 1(日) ■ 文化祭
- 13(金)～15(日) ■ 九州沖縄地区高専体育大会(サッカー)
- 14(土)～17(火) ■ 九州沖縄地区高専体育大会(ラグビー)
- 15(日) ■ ロボコン全国大会
- 24(火)～27(金) ■ 後期中間試験
- 28(土) ■ 編入学試験(学力)

12

December

- 9(水) ■ 競技大会
- 25(金)～1/4(月) ■ 冬季休業

1

January

- 5(火) ■ 授業開始
- 15(金) ■ 寮祭
- ◆その他の主な行事：全国高専ラグビー大会  
後期交通安全講習会  
グローバルリテラシー最終発表会

2

February

- 2(火)～8(月) ■ 後期定期試験
- 10(水) ■ 終業式
- 12(金) ■ 学年末休業はじめ
- 14(日) ■ 入学試験
- ◆その他の主な行事：卒業研究審査・発表会

3

March

- 19(金) ■ 卒業式

\\ Follow Us //

SNSははじめました！



最新の情報やイベント情報を  
いち早くお知らせします！



独立行政法人国立高等専門学校機構

佐世保工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Sasebo College

〒857-1193 長崎県佐世保市沖新町 1-1

TEL 0956-34-8420 FAX 0956-34-8425

<https://www.sasebo.ac.jp>

